

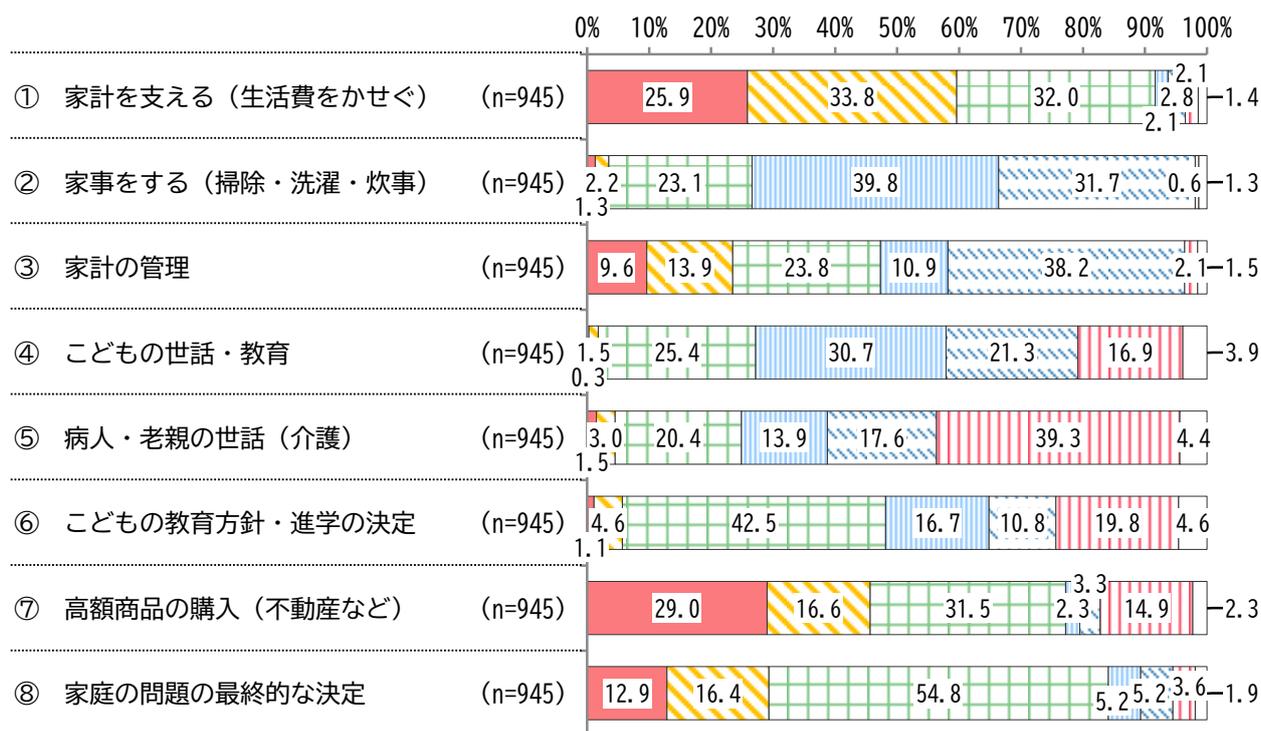
## 2. 家庭生活について

### (1) 家庭内の役割分担

問2 次にあげる①～⑧までの事柄で、あなたの家庭では主にどなたが行っていますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(○はそれぞれに1つ)

- 全体でみると、8つの家庭内の役割について「夫と妻が同じ程度負担」と回答した割合が最も高いのは【⑧家庭の問題の最終的な決定】で54.8%となっている。次いで【⑥こどもの教育方針・進学の方針】が42.5%、【③家計の管理】が23.8%となっている。
- 「主に夫が行う」と回答した割合が最も高いのは【⑦高額商品の購入（不動産など）】で29.0%、次に【①家計を支える（生活費をかせぐ）】が25.9%となっている。
- 「主に妻が行う」と回答した割合が最も高かったのは【③家計の管理】で38.2%、次に【②家事をする（掃除・洗濯・炊事）】が31.7%となっている。

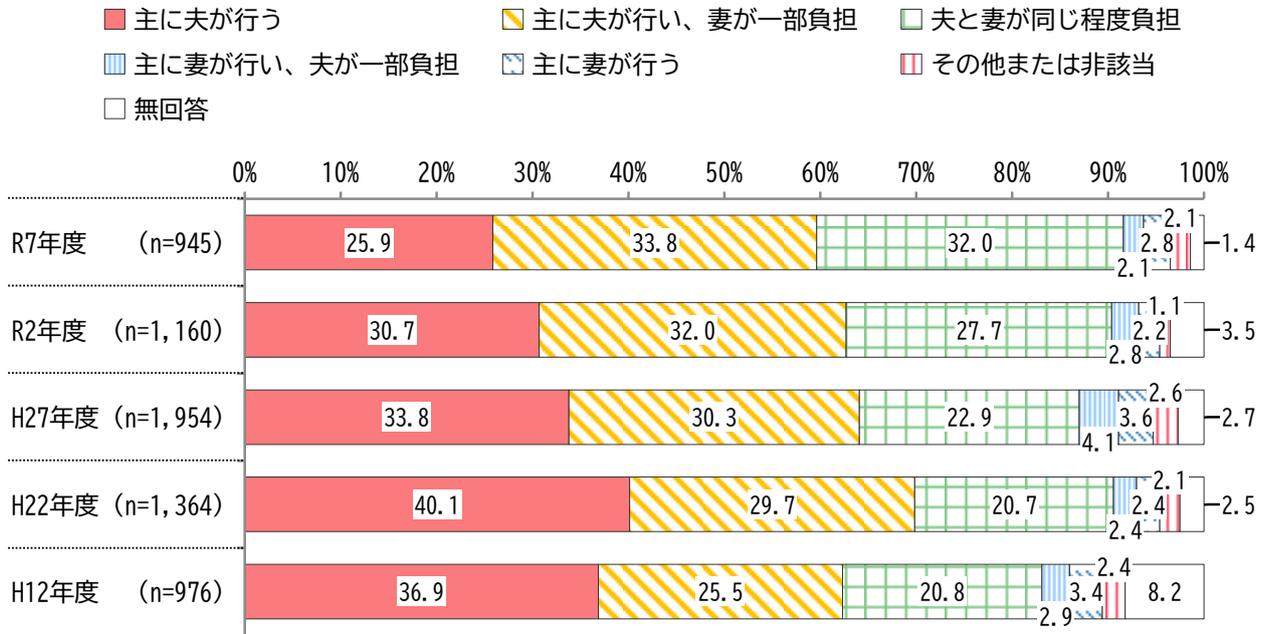
- 主に夫が行う
- 主に夫が行い、妻が一部負担
- 夫と妻が同じ程度負担
- 主に妻が行い、夫が一部負担
- 主に妻が行う
- その他または非該当
- 無回答



① 家計を支える（生活費をかせぐ）

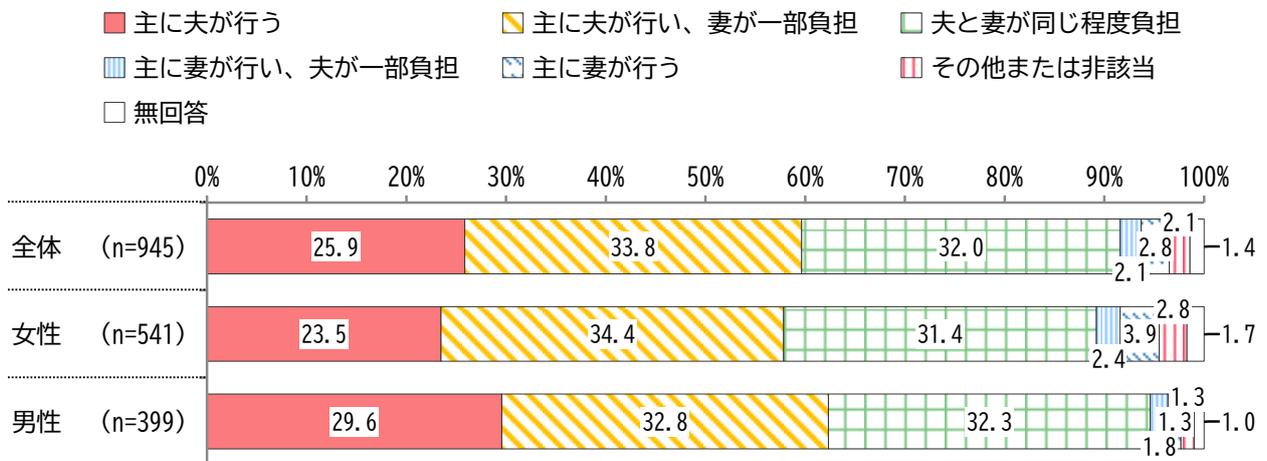
【経年比較】

- 経年で比較すると、「主に夫が行う」は減少傾向にあり、夫が単独で生活費を支える家庭は以前より少なくなっている。R7年度では「主に夫が行い、妻が一部担当」（33.8%）「夫と妻が同じ程度負担」（32.0%）が他年代より高く、妻が生活費の担い手として関与する割合が広がっている。



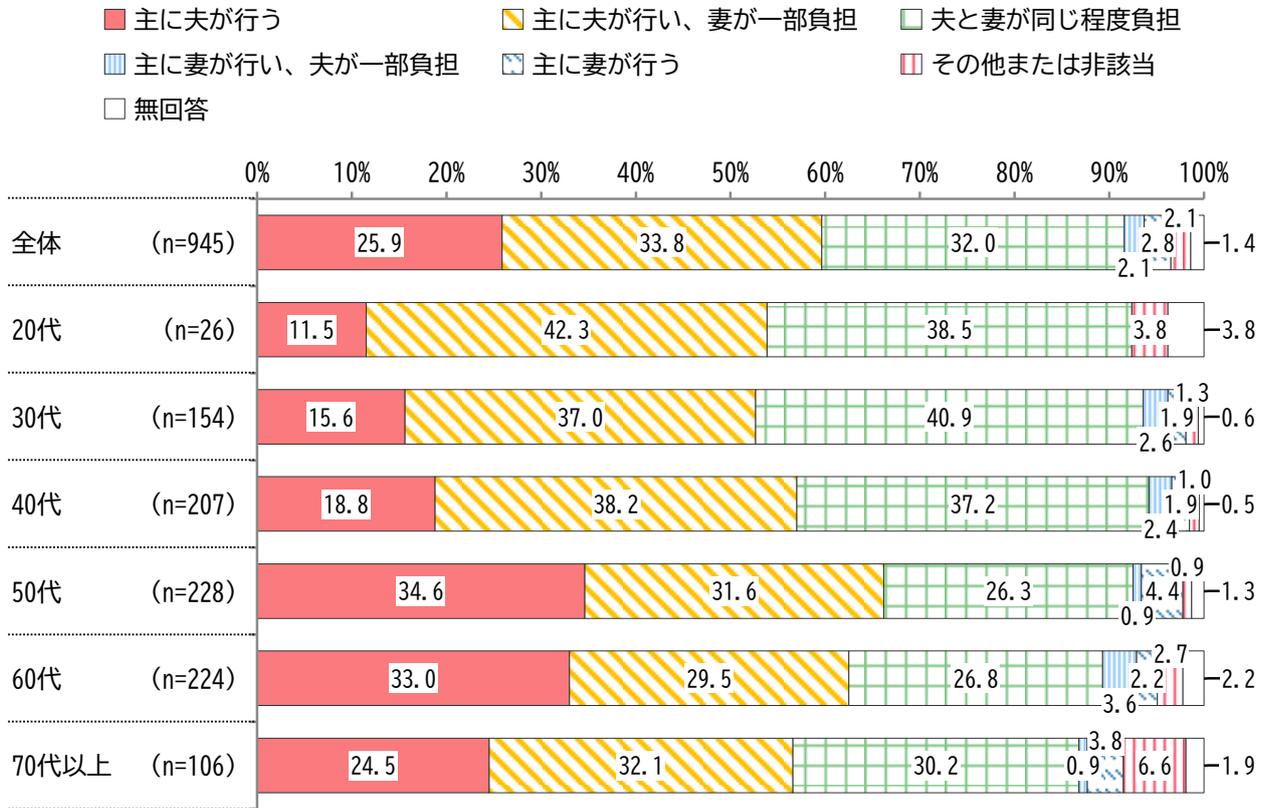
【性別比較】

- 性別でみると、「主に夫が行う」「主に夫が行い、妻が一部負担」を合わせた割合は男性（62.4%）が女性（57.9%）より4.5ポイント高く、男性の方が、夫が負担していると答えている。「夫と妻が同じ程度負担」は女性（31.4%）と男性（32.3%）で大きな差はみられず、均等負担が男女とも一定の割合を占めている。



【年代別比較】

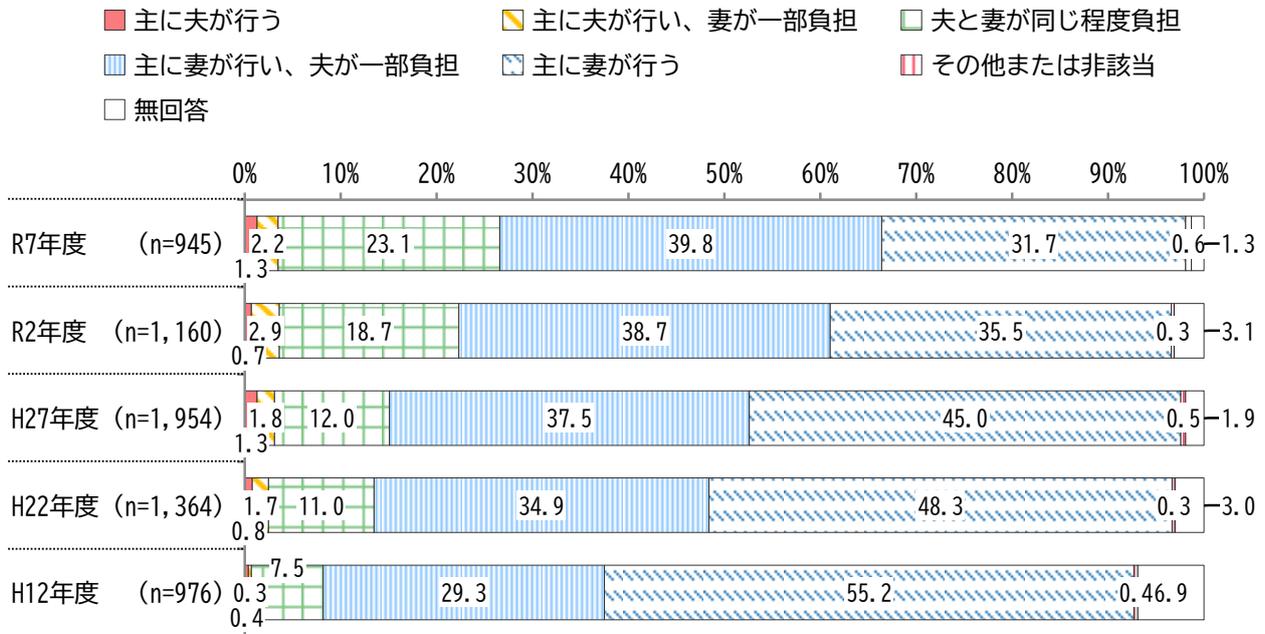
- 年代別でみると、全体では「主に夫が行う」25.9%に対し50代は34.6%で全体より8.7ポイント高く、「主に夫が行い、妻が一部負担」は20代42.3%が最も高く全体33.8%より8.5ポイント高い。「夫と妻が同じ程度負担」は30代40.9%が全体32.0%より8.9ポイント高く年齢差が明確である。



## ② 家事をする（掃除・洗濯・炊事）

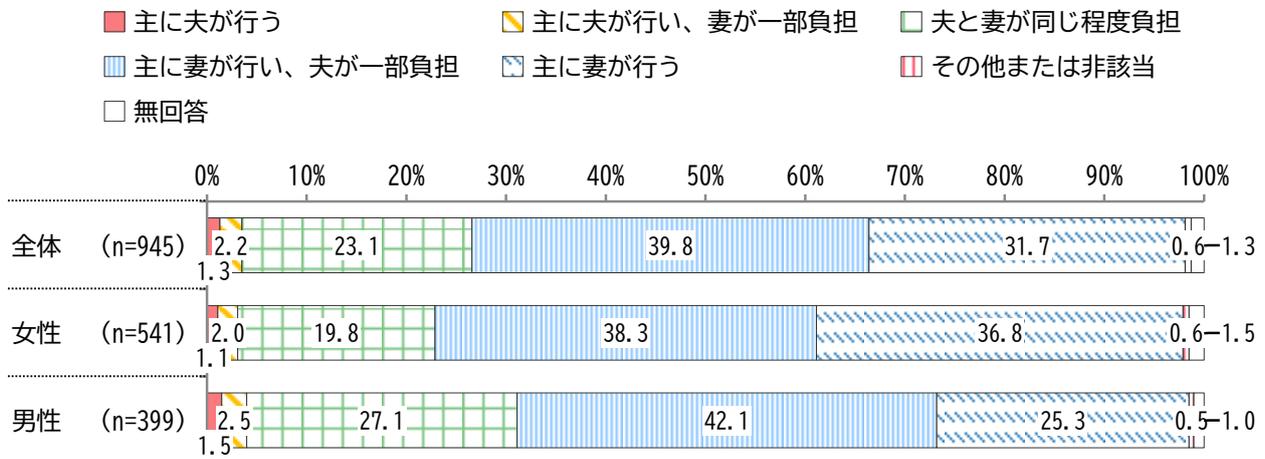
### 【経年比較】

- 経年で比較すると、R7年度の「主に妻が行う」（31.7%）はH12年度（55.2%）から継続して低下しており、家事を妻が単独で担う家庭は減少している。「夫と妻が同じ程度行う負担」はR7年度（23.1%）が最も高く、家事を分担する家庭が広がっている。「主に妻が行い、夫が一部負担」も継続して増加し、夫が家事に関わる家庭が増えている。



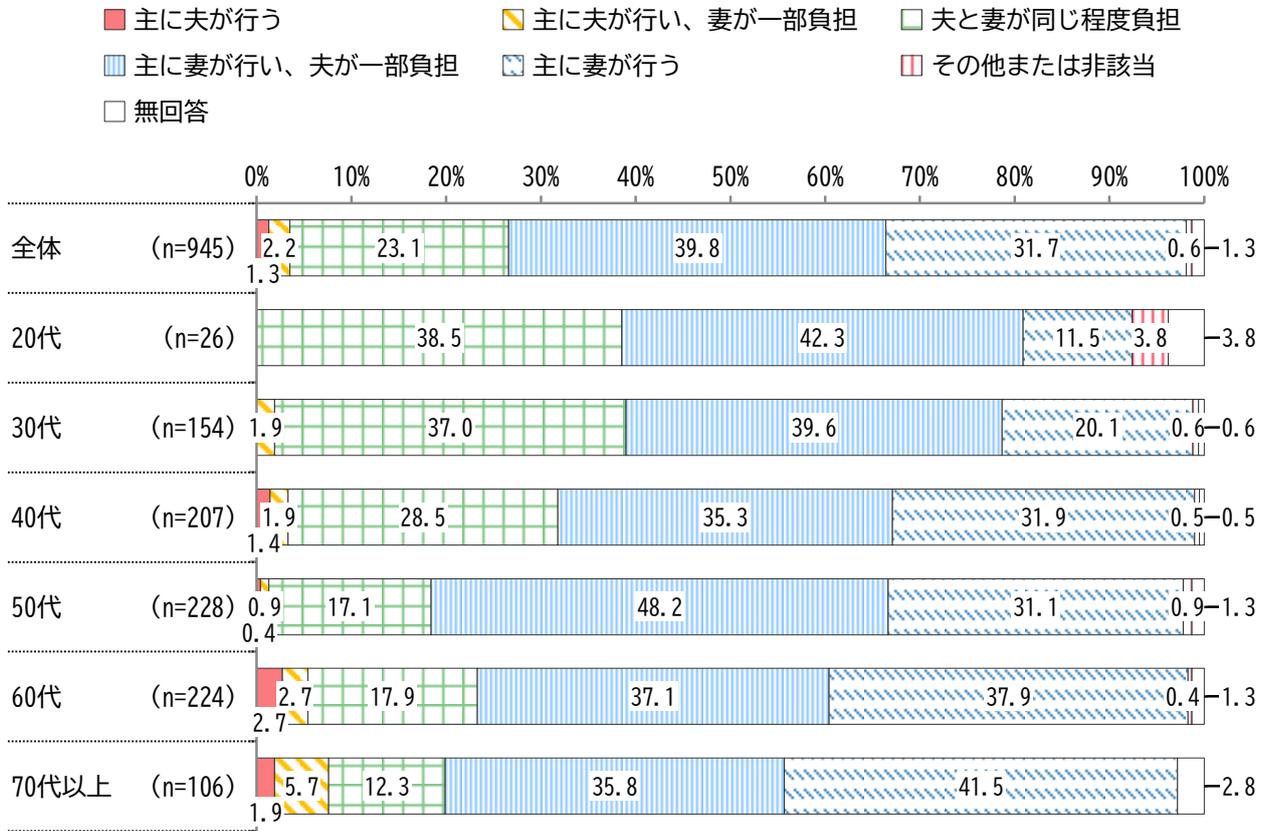
### 【性別比較】

- 性別でみると、「主に妻が行う」「主に妻が行い、夫が一部負担」を合わせた割合は女性（75.1%）が男性（67.4%）より7.7ポイント高く、女性の方が、妻が家事を負担していると答えている。「夫と妻が同じ程度負担」は女性（19.8%）より男性（27.1%）が7.3ポイント高く、男性側ほど家事の分担意識が強い様子が見える。



【年代別比較】

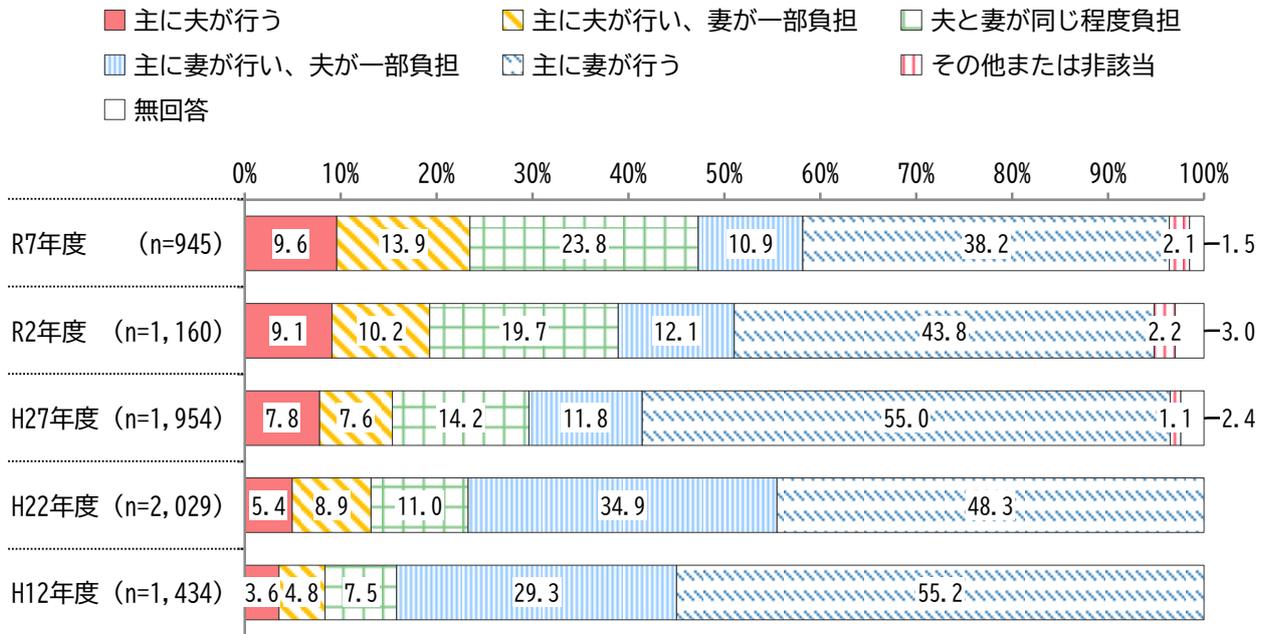
- 年代別で見ると、全体では「主に妻が行い、夫が一部負担」が39.8%で最も高い。「主に妻が行い、夫が一部負担」は50代（48.2%）が最も高く、全体（39.8%）との差は8.4ポイントである。「夫と妻が同じ程度負担」は20代が38.5%で最も高く、全体（23.1%）との差は15.4ポイントである。「主に夫が行う」は全年代で3%以下にとどまる。



### ③ 家計の管理

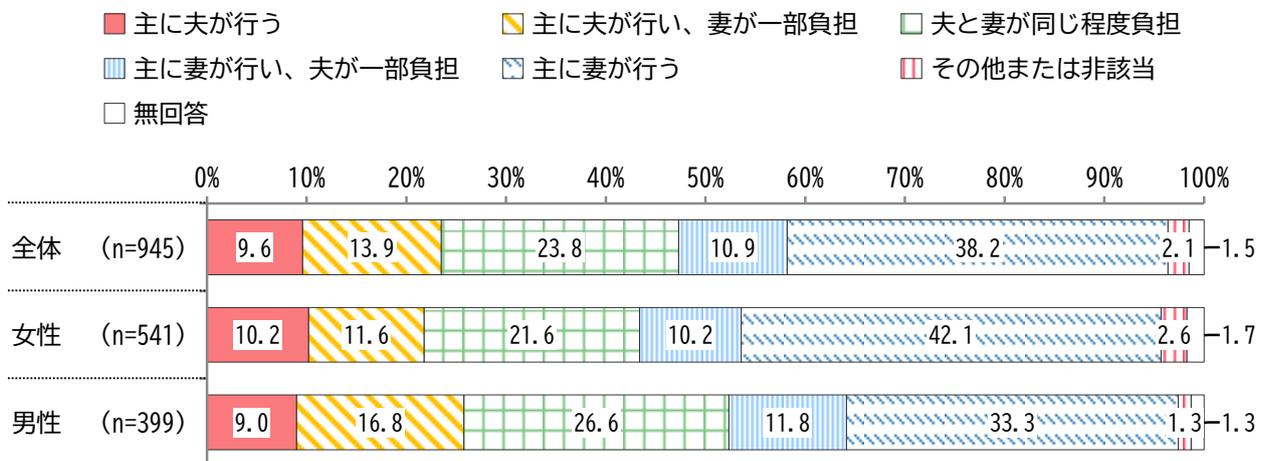
#### 【経年比較】

- 経年で比較すると、R7年度は「主に妻が行う」(38.2%)が最も高く、前年度のR2年度(43.8%)と比べるとわずかに低下しているが、依然として女性が家計管理を担う家庭が多い状況である。「夫と妻が同じ程度負担」(23.8%)は一貫して増加しており、共同管理が広がっている。「主に夫が行う」「主に夫が行い、妻が一部負担」は徐々に拡大しており、役割分担が多様化してきている。



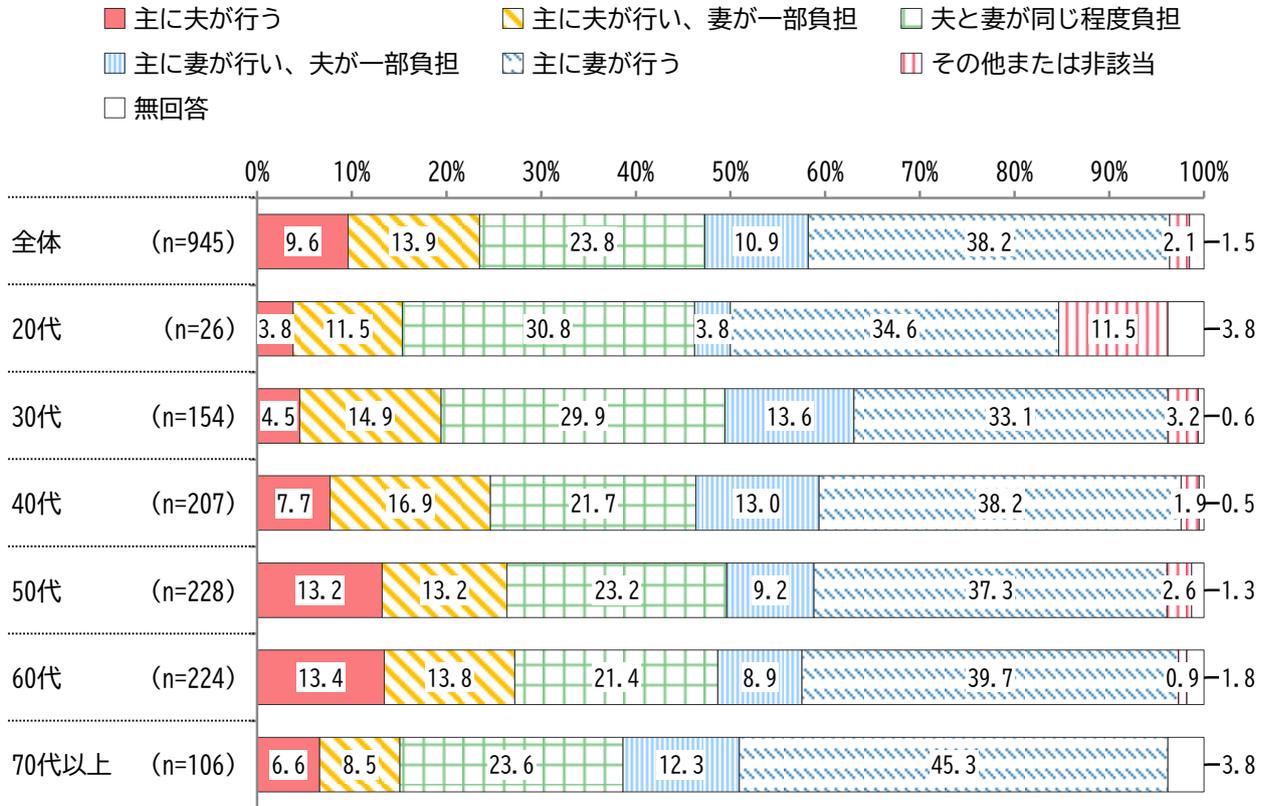
#### 【性別比較】

- 性別でみると、「主に妻が行う」「主に妻が行い、夫が一部負担」を合わせた割合は女性(52.3%)が男性(45.1%)より7.2ポイント高く、女性の方が、妻が負担していると答えている。「主に夫が行う」「主に夫が行い、妻が一部負担」は女性(21.8%)より男性(25.8%)が4.0ポイント高く、男性側では夫主導の割合がやや高い。



【年代別比較】

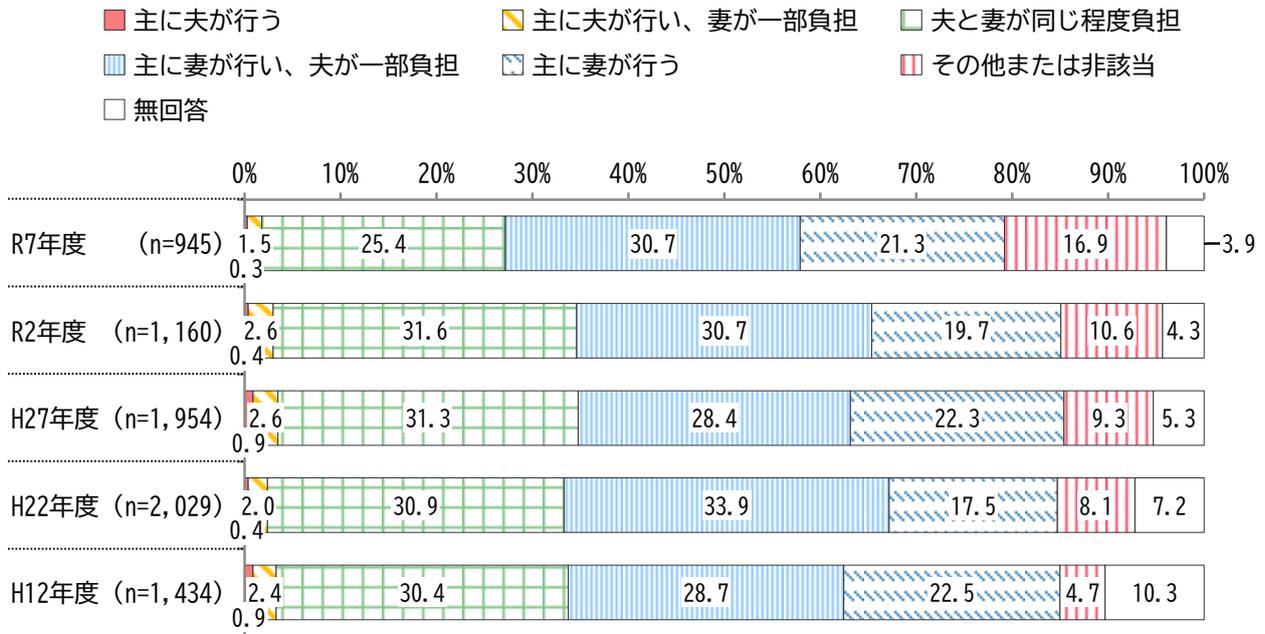
- 年代別でみると、全体では「主に妻が行う」が 38.2%で最も高く、「夫と妻が同じ程度負担」が 23.8%で続く。20代では「夫と妻が同じ程度負担」が 30.8%で全体より 7.0 ポイント高い。60代では「主に夫が行う」が 13.4%で全体との差は 3.8 ポイントとなっている。



#### ④ こどもの世話・教育

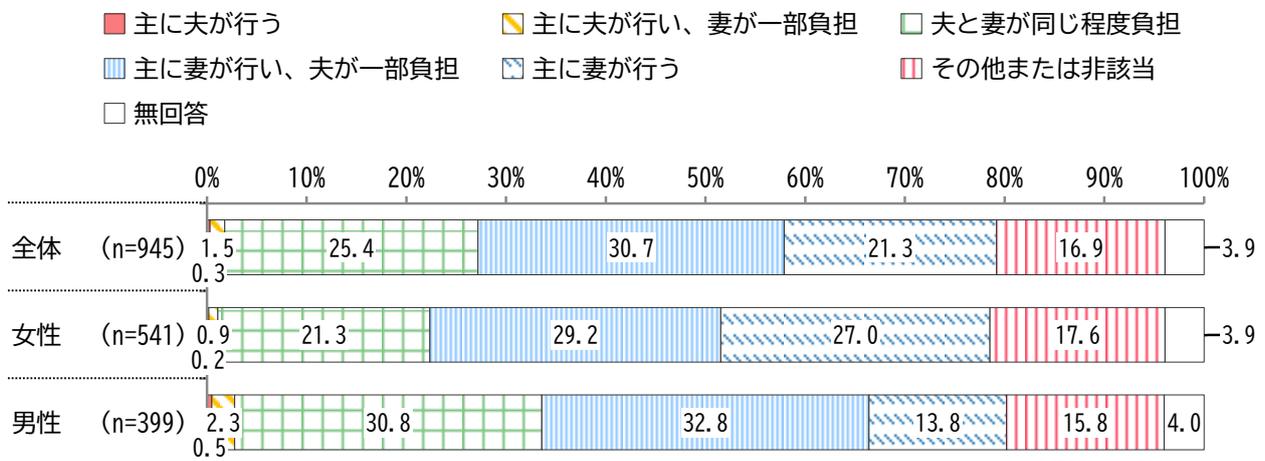
##### 【経年比較】

- 経年で比較すると、R7年度は「主に妻が行い、夫が一部負担」(30.7%)、「主に妻が行う」(21.3%)と、妻が担う家庭が引き続き多い。R2年度と比べると「夫と妻が同じ程度負担」は31.6%から25.4%へ下がっている一方で、「主に妻が行う」は19.7%から21.3%へ上がっている。H27年度や他年代と比較しても構成は大きく変わらず、妻が中心となる形が安定している。



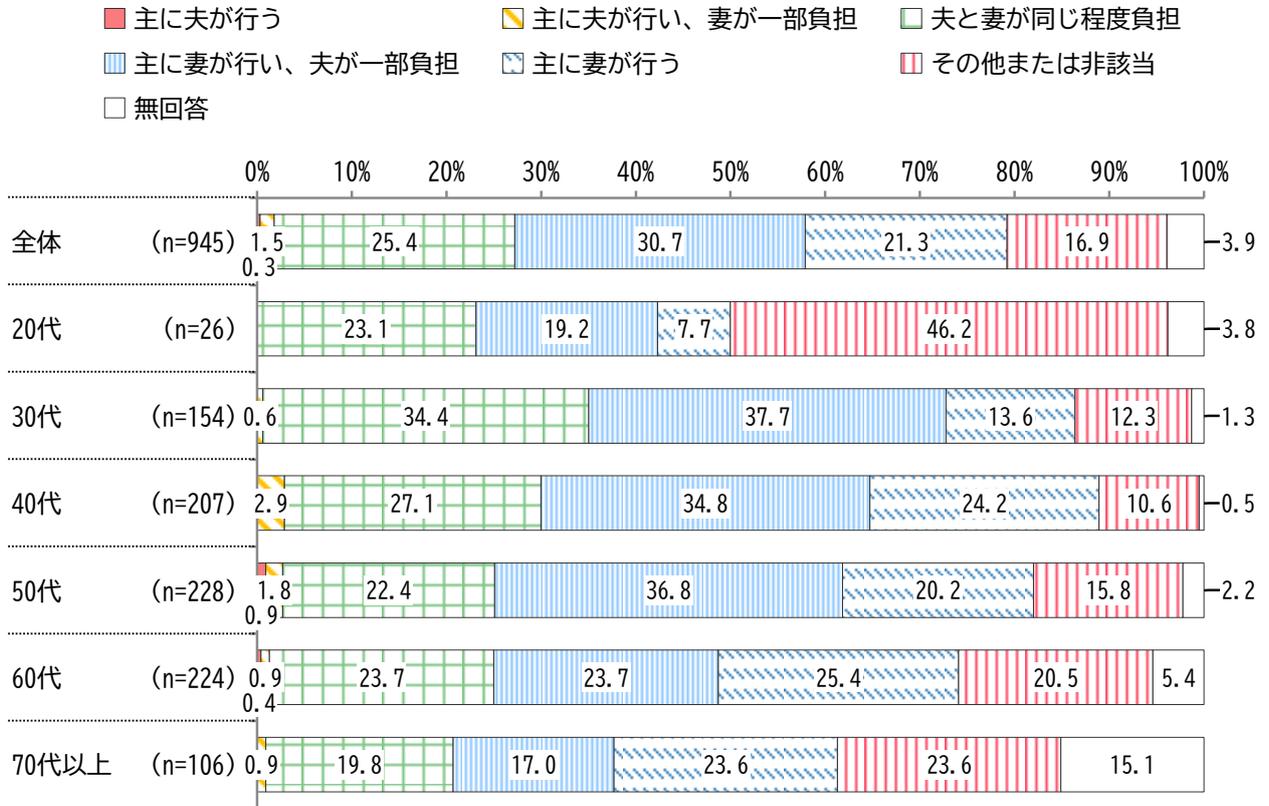
##### 【性別比較】

- 性別でみると、「主に妻が行う」「主に妻が行い、夫が一部負担」を合わせた割合は女性(56.2%)が男性(46.6%)より9.6ポイント高く、女性の方が、妻が負担していると答えている。「夫と妻が同じ程度負担」は男性(30.8%)が女性(21.3%)より9.5ポイント高く、男性では、同程度負担しているとの回答が多い。



【年代別比較】

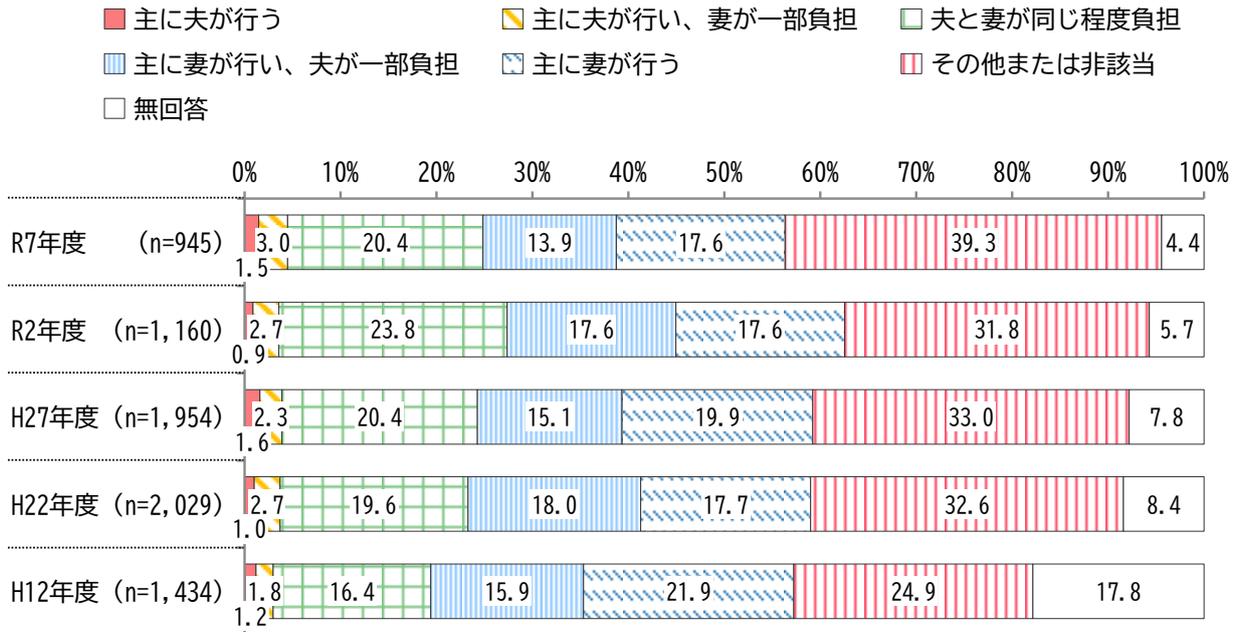
- 年代別でみると、全体では「主に妻が行い、夫が一部負担」が30.7%で最も高く、「夫と妻が同じ程度負担」が25.4%で続いており、家事分担は妻側に偏る構造がみられる。「主に妻が行い、夫が一部負担」は30代が37.7%と最も高く、全体と比較して7.0ポイントの差となっている。



## ⑤ 病人・老親の世話（介護）

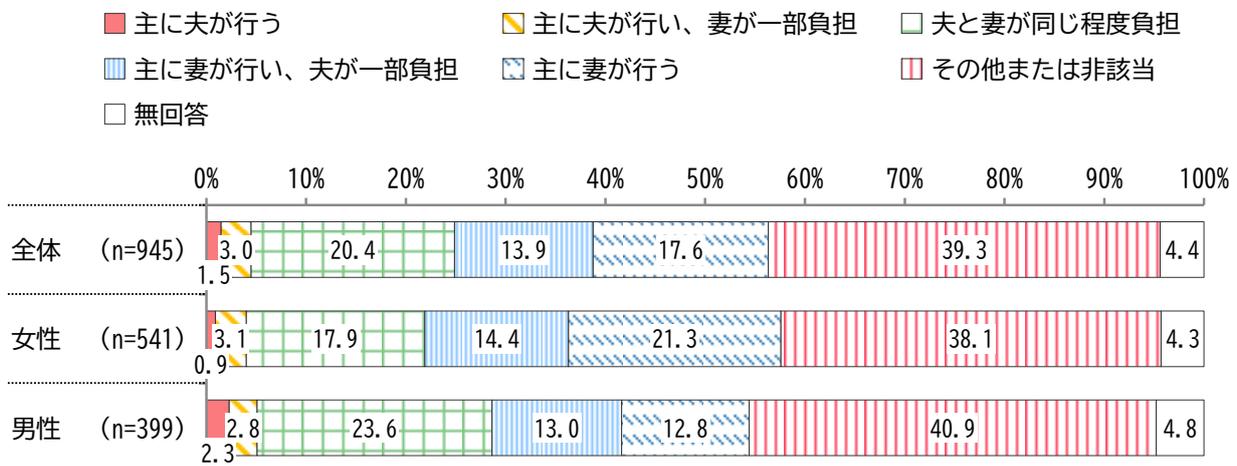
### 【経年比較】

- 経年で比較すると、R7年度は「夫と妻が同じ程度負担」（20.4%）がR2年度（23.8%）よりやや低いものの、H22年度以降20%前後で推移しており、共に関わる形が一定程度続いている。R7年度の「主に妻が行う」（17.6%）はH27年度（19.9%）よりやや低下しているが大きな変動はみられない。一方、「その他または非該当」はR7年度が39.3%で最も高く、介護の担い手が家庭外にも広がっている可能性がみられる。



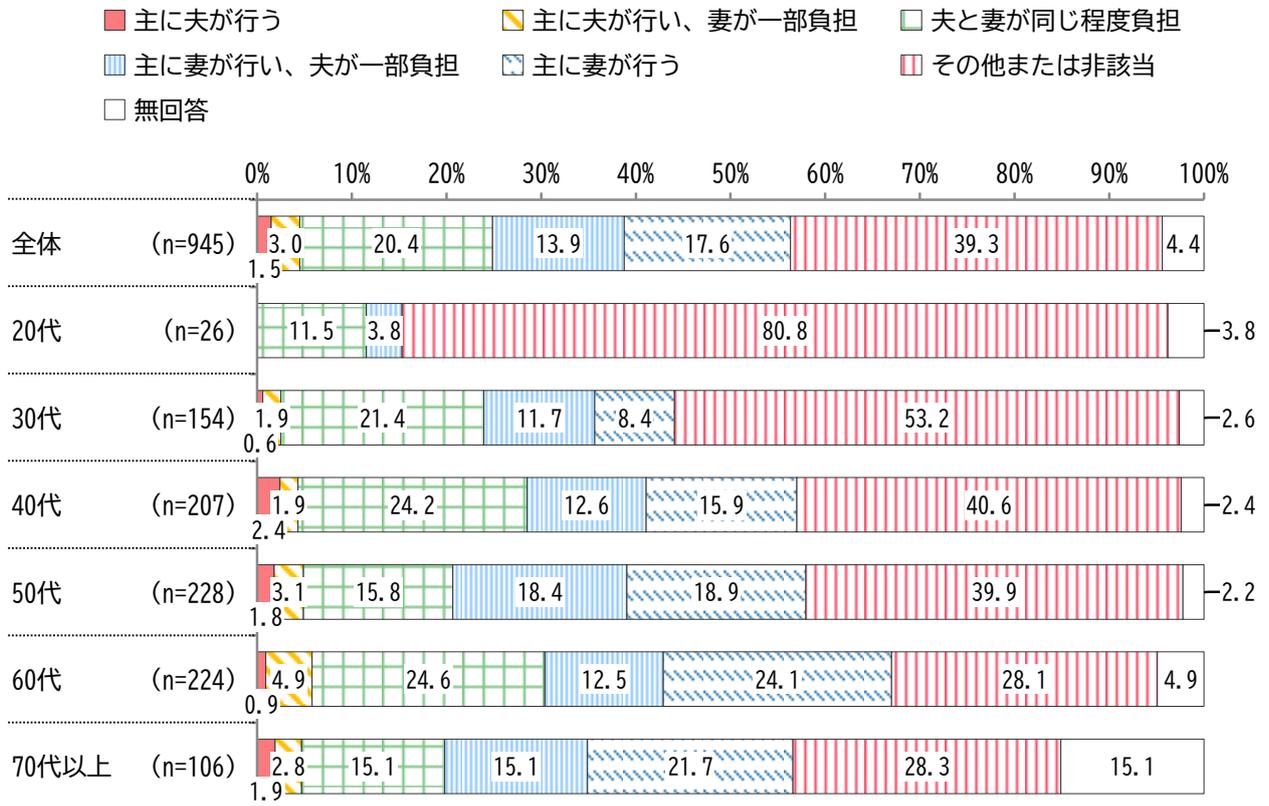
### 【性別比較】

- 性別でみると、「主に妻が行う」「主に妻が行い、夫が一部負担」を合わせた割合は女性（35.7%）が男性（25.8%）より9.9ポイント高く、女性の方が、妻が負担していると答えている。「夫と妻が同じ程度負担」は男性（23.6%）が女性（17.9%）より5.7ポイント高く、男性では、同程度負担しているとの回答が比較的多い。



【年代別比較】

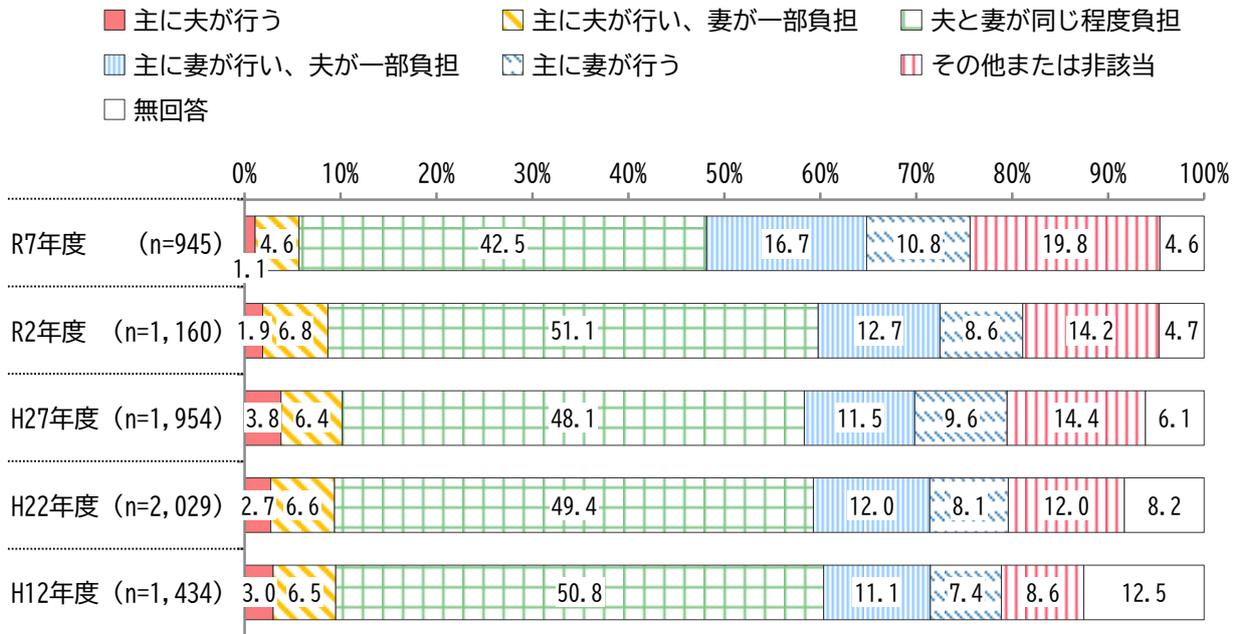
- 年代別でみると、全体では「夫と妻が同じ程度負担」が20.4%で高く、「主に妻が行う」は17.6%で続いている。30代では「夫と妻が同じ程度負担」が21.4%で全体より1.0ポイント高い。50代では「主に妻が行い、夫が一部負担」が18.4%で全体より4.5ポイント高い。60代では「主に妻が行う」が24.1%で全体より6.5ポイント高く突出している。「その他または非該当」は70代以上が28.3%で全体より11.0ポイント低い。



## ⑥ こどもの教育方針・進学の設定

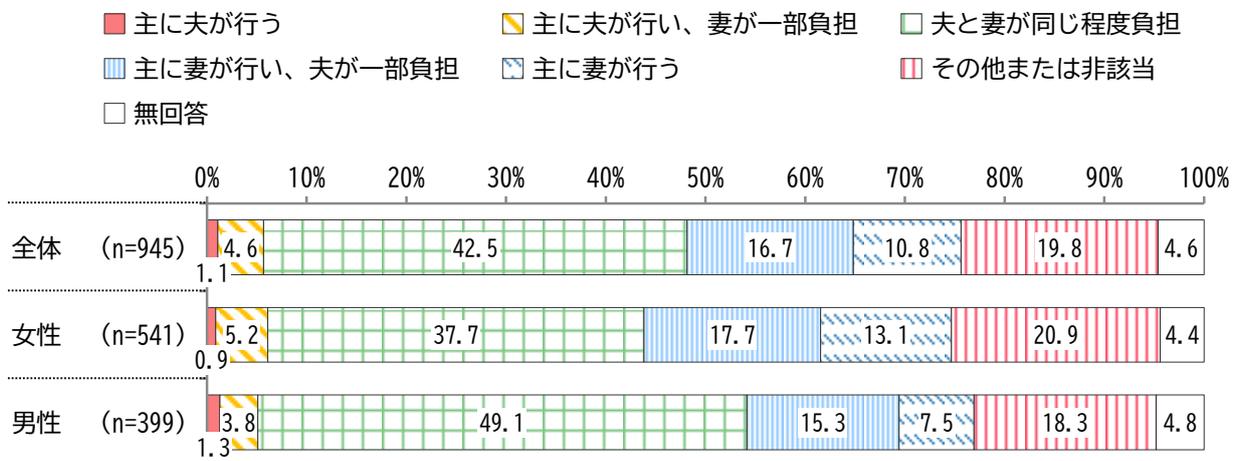
### 【経年比較】

- 経年で比較すると、「夫と妻が同じ程度負担」はR7年度が42.5%で他年度より低く、共同で決定する割合が縮小している。「主に妻が行い、夫が一部負担」は16.7%で他年度より高く、妻側の関与が増える傾向がみられる。「主に夫が行う」は1.1%でH12年度より低く、夫が単独で担う割合は縮小している。



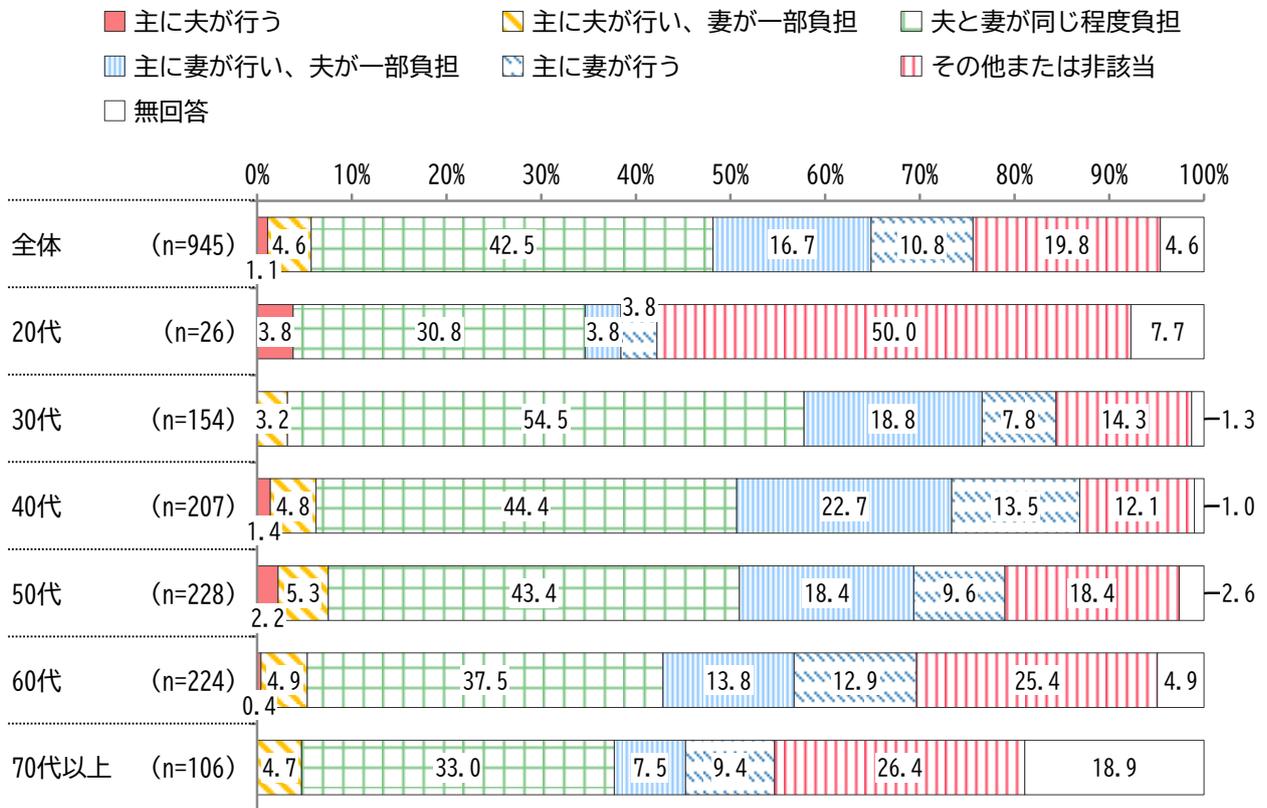
### 【性別比較】

- 性別でみると、「主に妻が行う」「主に妻が行い、夫が一部負担」を合わせた割合は女性(30.8%)が男性(22.8%)より8.0ポイント高く、女性の方が、妻が負担していると答えている。「夫と妻が同じ程度負担」は男性(49.1%)が女性(37.7%)より11.4ポイント高く、男性では、妻と同程度負担しているとの回答が比較的多い。



### 【年代別比較】

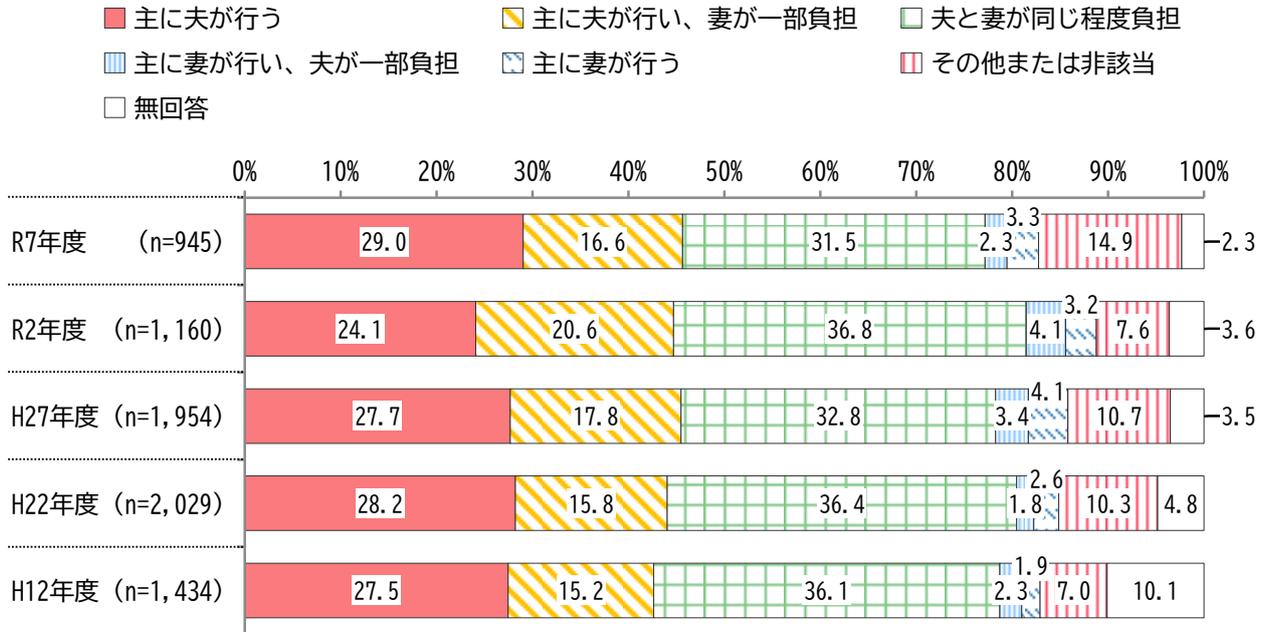
- 年代別でみると、全体では「夫と妻が同じ程度負担」が42.5%で最も高い。年代別では30代が54.5%で最も高く、20代は30.8%と他年代より低い。「主に妻が行い、夫が一部負担」は40代が22.7%と最も高い。「主に夫が行う」は20代が3.8%と相対的に高い。「その他または非該当」は20代が50.0%で最も高い。



⑦ 高額商品の購入（不動産など）

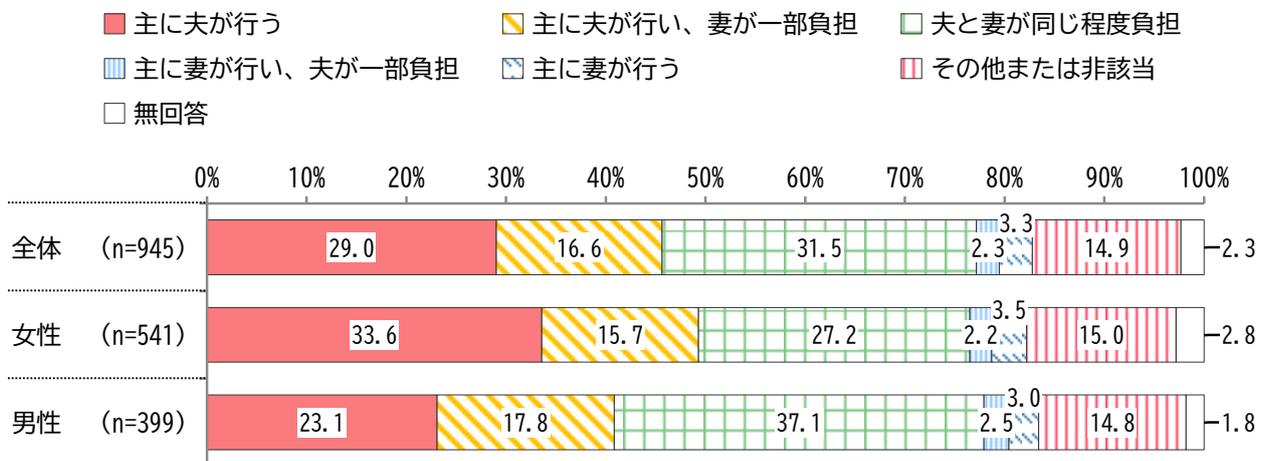
【経年比較】

- 経年で比較すると、「夫と妻が同じ程度負担」は R7 年度が 31.5% で H22 年度や R2 年度と比較して低下しており、共同で決定する割合が縮小する傾向がみられる。「主に夫が行う」は 29.0% で他年度と大きな差がなく、夫が担う構図は安定している傾向がみられる。「主に夫が行い、妻が一部負担」は 16.6% で他年代との差が小さく、分担の形に大きな変化はみられない。



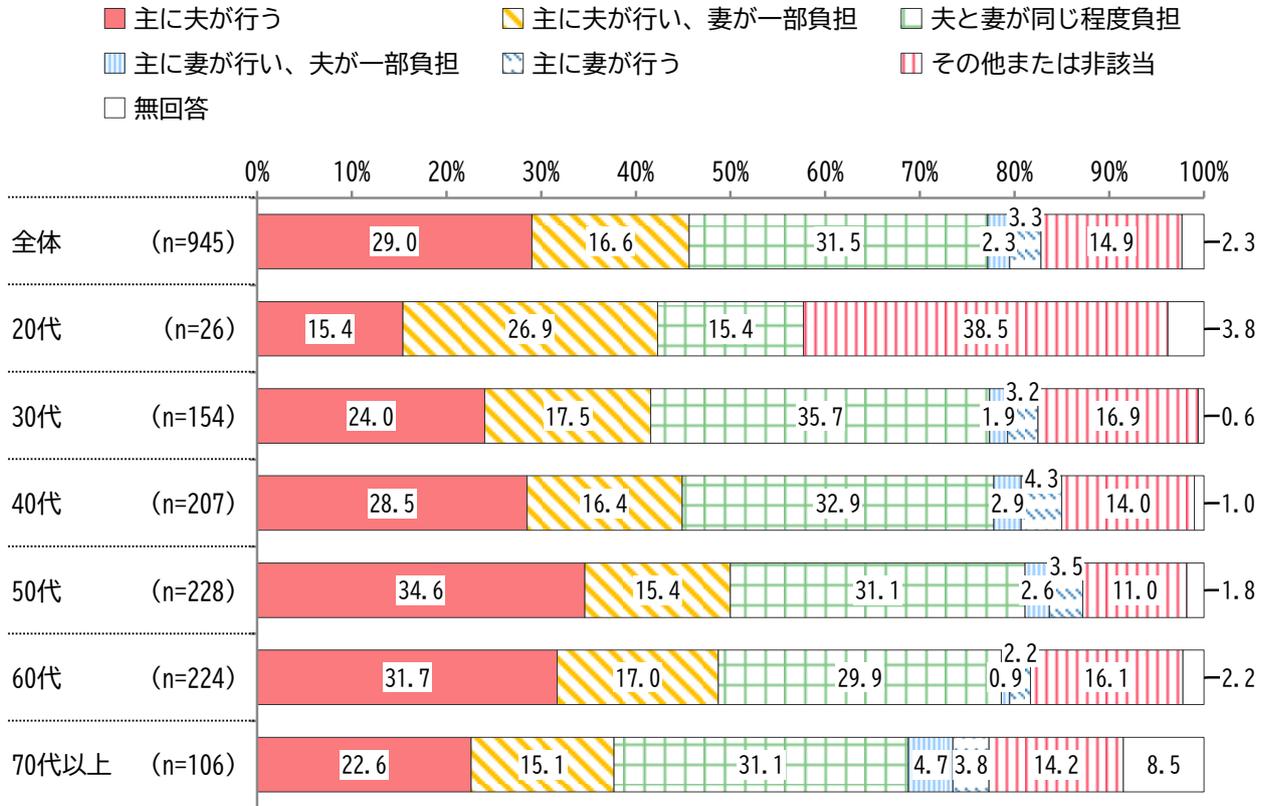
【性別比較】

- 性別でみると、「夫と妻が同じ程度負担」は男性（37.1%）が女性（27.2%）より 9.9 ポイント高く、高額商品の判断において男性で共同負担型がより多い。「主に夫が行う」「主に夫が行い、妻が一部負担」を合わせると女性（49.3%）が男性（40.9%）より 8.4 ポイント高く、女性の回答では夫側主導の割合が高い傾向がみられる。



【年代別比較】

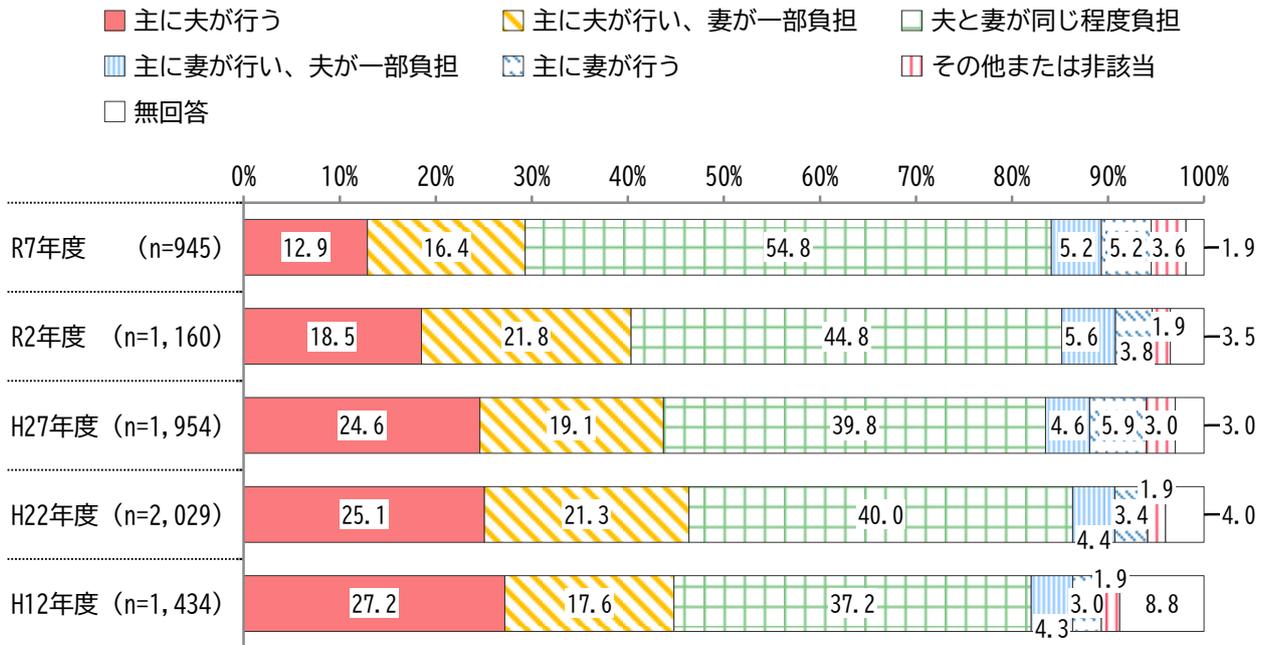
- 年代別でみると、全体では「夫と妻が同じ程度負担」が 31.5%で最も高い。年代別では 30 代が 35.7%と高く、20 代は 15.4%と低い。「主に夫が行う」は 50 代が 34.6%で最も高く、20 代は 15.4%と低い。「主に夫が行い、妻が一部負担」は 20 代が 26.9%と突出している。



## ⑧ 家庭の問題の最終的な決定

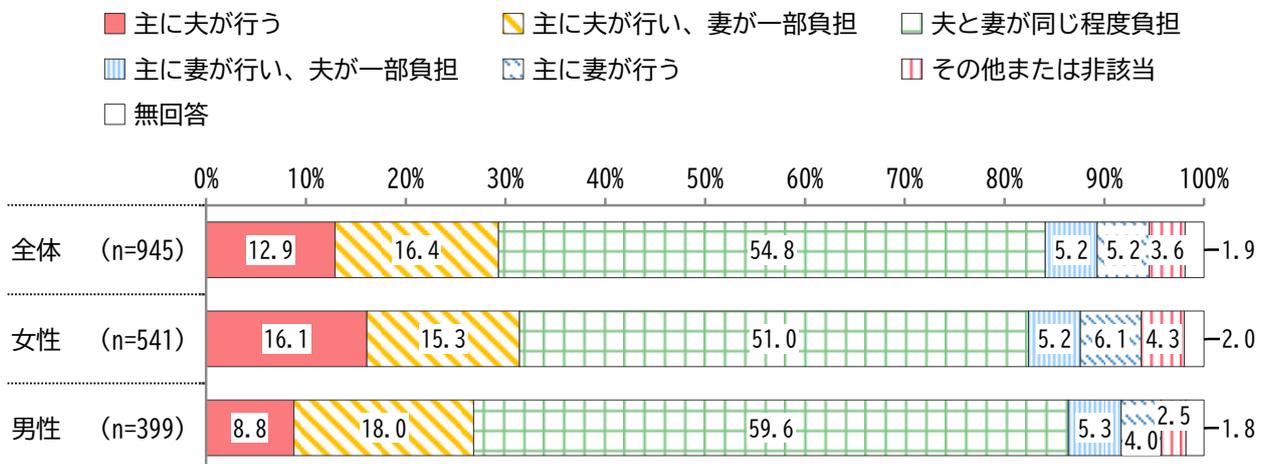
### 【経年比較】

- 経年で比較すると、「夫と妻が同じ程度負担」はR7年度が54.8%となり、R2年度の44.8%より10.0ポイント上昇しており、夫婦共同で決定する家庭が広がっている傾向が示される。「主に夫が行う」は12.9%でR2年度（18.5%）より5.6ポイント低下している。「主に夫が行い、妻が一部負担」は16.4%でH12年度以降の推移と比較して大きな変化はみられない。



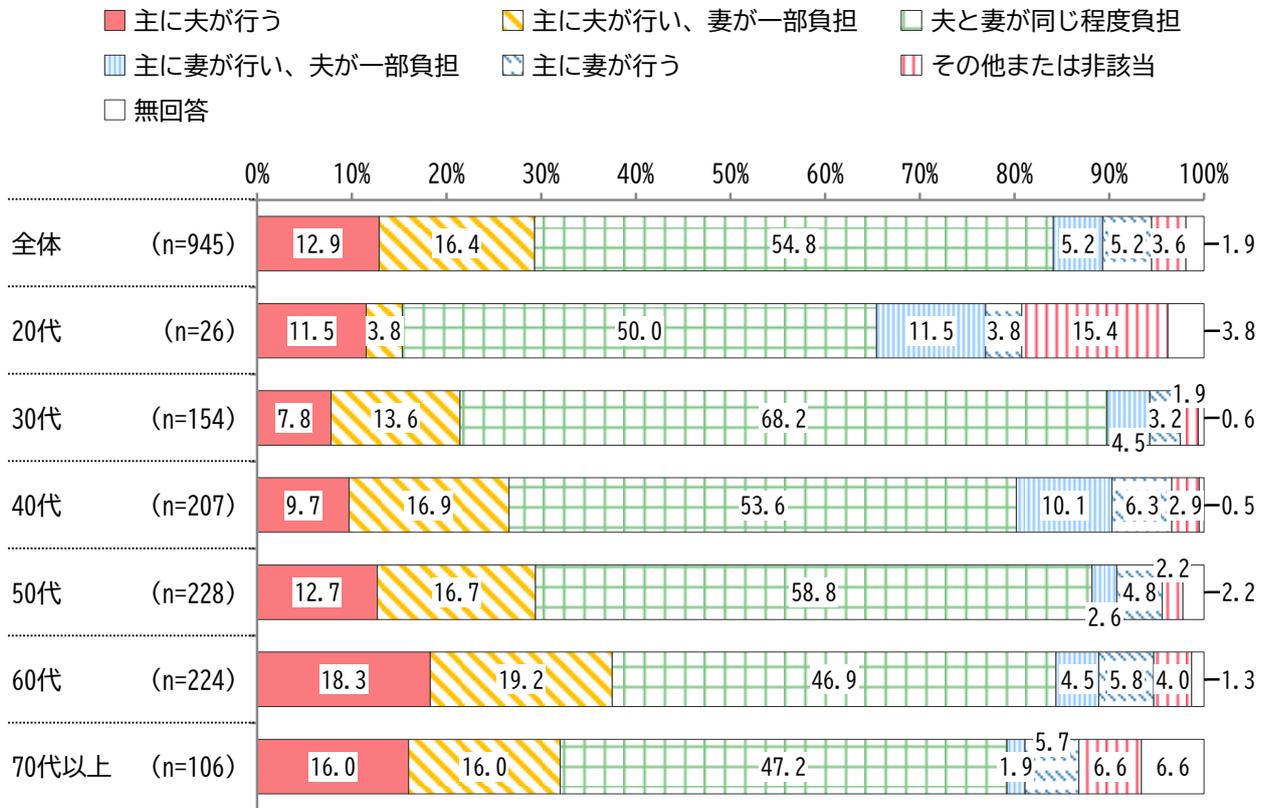
### 【性別比較】

- 性別でみると、「夫と妻が同じ程度負担」は男性（59.6%）が女性（51.0%）より8.6ポイント高く、家庭の最終決定を共同で行う割合は男性で高い。「主に夫が行う」「主に夫が行い、妻が一部負担」を合わせると女性（31.4%）が男性（26.8%）より4.6ポイント高く、女性回答では夫側主導の認識がやや高い。



【年代別比較】

- 年代別でみると、「夫と妻が同じ程度負担」は全体で 54.8%と最も高く、年代別でも 30 代が 68.2%で突出している。「主に夫が行う」は 60 代が 18.3%と最も高い。「主に妻が行い、夫が一部負担」は 20 代が 11.5%で最も高い。「主に妻が行う」は 40 代が 6.3%と相対的に高い。

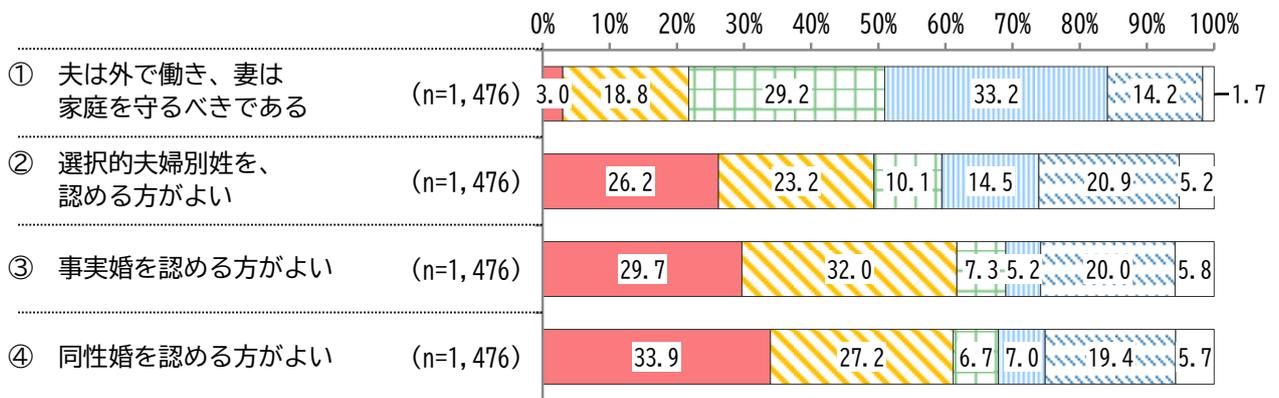


(2) 結婚や家庭生活に関する考え .....

問3 次にあげる①～④までの事柄で、結婚や家庭生活に関するあなたの考えに近いものをお答えください。(○はそれぞれに1つ)

- 全体でみると、「賛成」+「どちらかといえば賛成」の割合が最も高いのは【③事実婚を認める方がよい】が61.7%となっている。次いで【④同性婚を認める方がよい】で61.1%、【②選択的夫婦別姓を、認める方がよい】が49.4%となっている。
- 「反対」+「どちらかといえば反対」の割合が最も高いのは【①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】で62.4%となっている。続いて【②選択的夫婦別姓を、認める方がよい】が24.6%、【④同性婚を認める方がよい】が13.7%となっている。
- 「賛成」のみでみると【④同性婚を認める方がよい】が33.9%と最も高く、次に【③事実婚を認める方がよい】が29.7%、【②選択的夫婦別姓を、認める方がよい】が26.2%となっている。

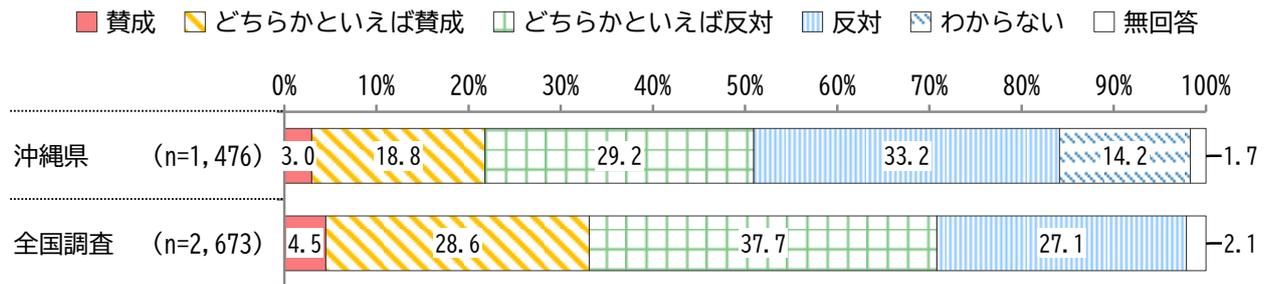
■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無回答



① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

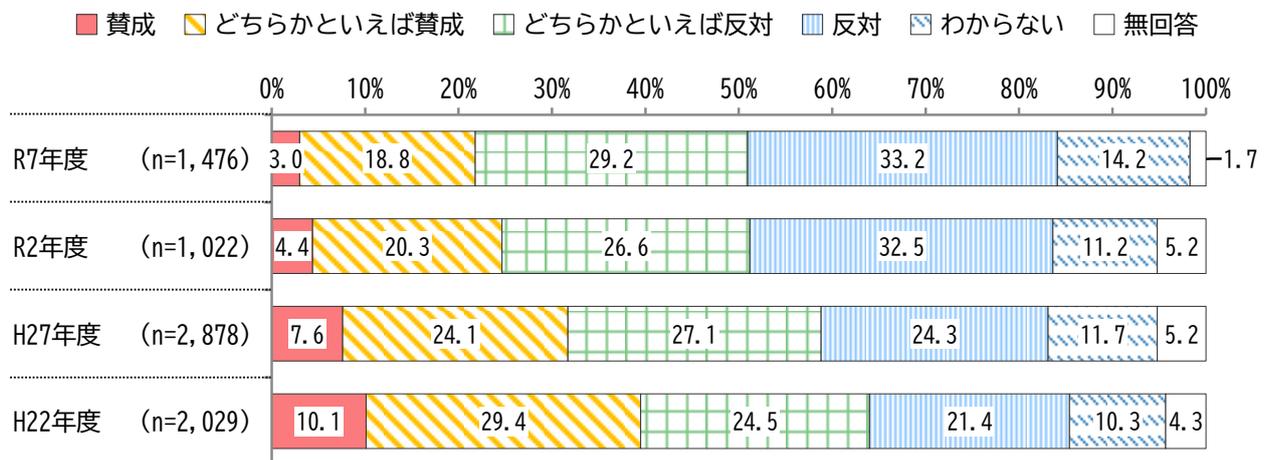
【全国調査比較】

- 全国調査と比較すると、沖縄県では「反対」が 33.2%で最も高く、「どちらかといえば反対」が 29.2%で続いており、否定的な回答が合計 62.4%となっている。一方、「賛成」は 3.0%と最も低い。「どちらかといえば賛成」は 18.8%で、肯定的な合計は 21.8%にとどまる。全国調査では「どちらかといえば反対」が 37.7%で最も高く、「反対」は 27.1%となっており、沖縄県と全国ともに否定的な傾向がみられる。



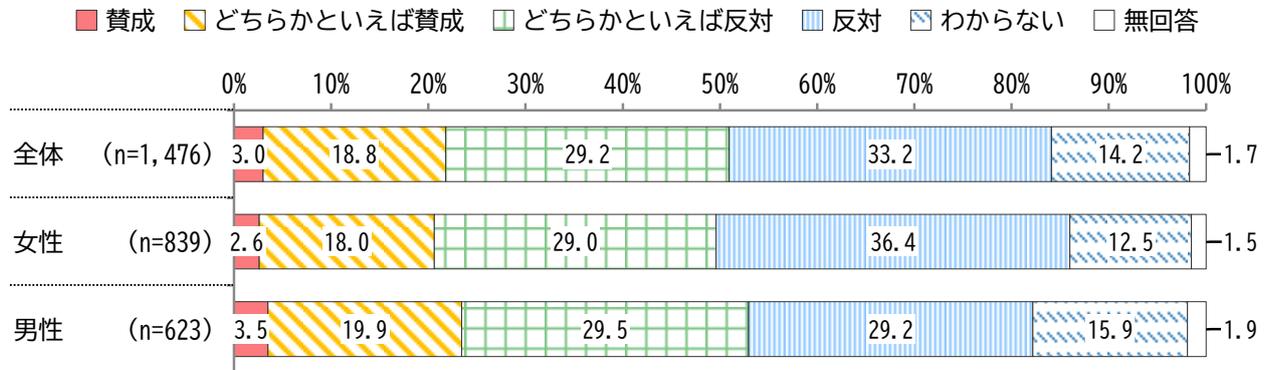
【経年比較】

- 経年で比較すると、R7年度では「反対」が 33.2%で最も高い。経年では R2年度 (32.5%)、H27年度 (24.3%)、H22年度 (21.4%) と H27年度以降では反対が上位に位置している。「賛成」「どちらかといえば賛成」は年次が古いほど高く、H22年度は合計 39.5%と R7年度 (21.8%) より 17.7ポイント高い。「どちらかといえば反対」は R7年度 (29.2%) が最も高い。



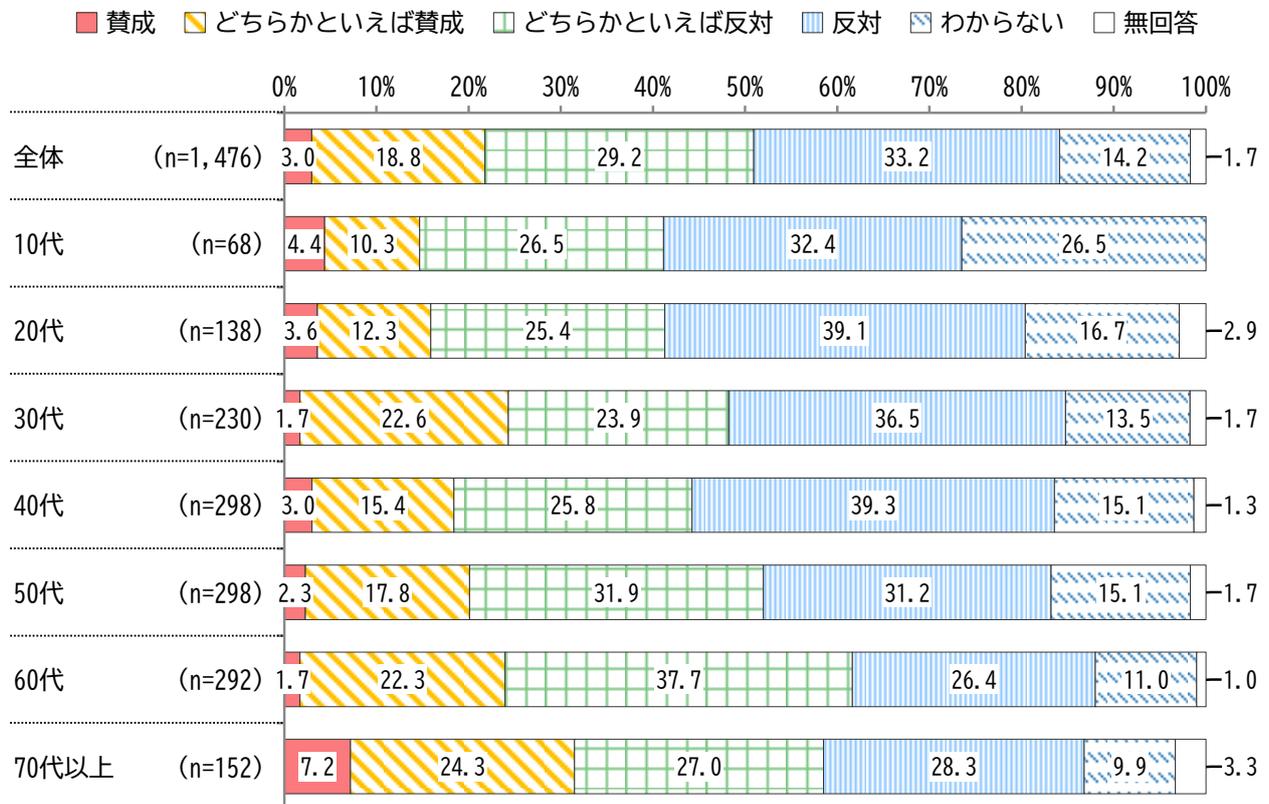
### 【性別比較】

- 性別でみると、「反対」は女性（36.4%）が男性（29.2%）より 7.2 ポイント高く、女性で明確に否定的な意識が高い。「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると男性（23.4%）が女性（20.6%）より 2.8 ポイント高く、男性の方が伝統的性別役割を支持する割合が高い。全体として否定的意識が賛成を上回り、性役割観は男女とも反対方向が中心となっている。



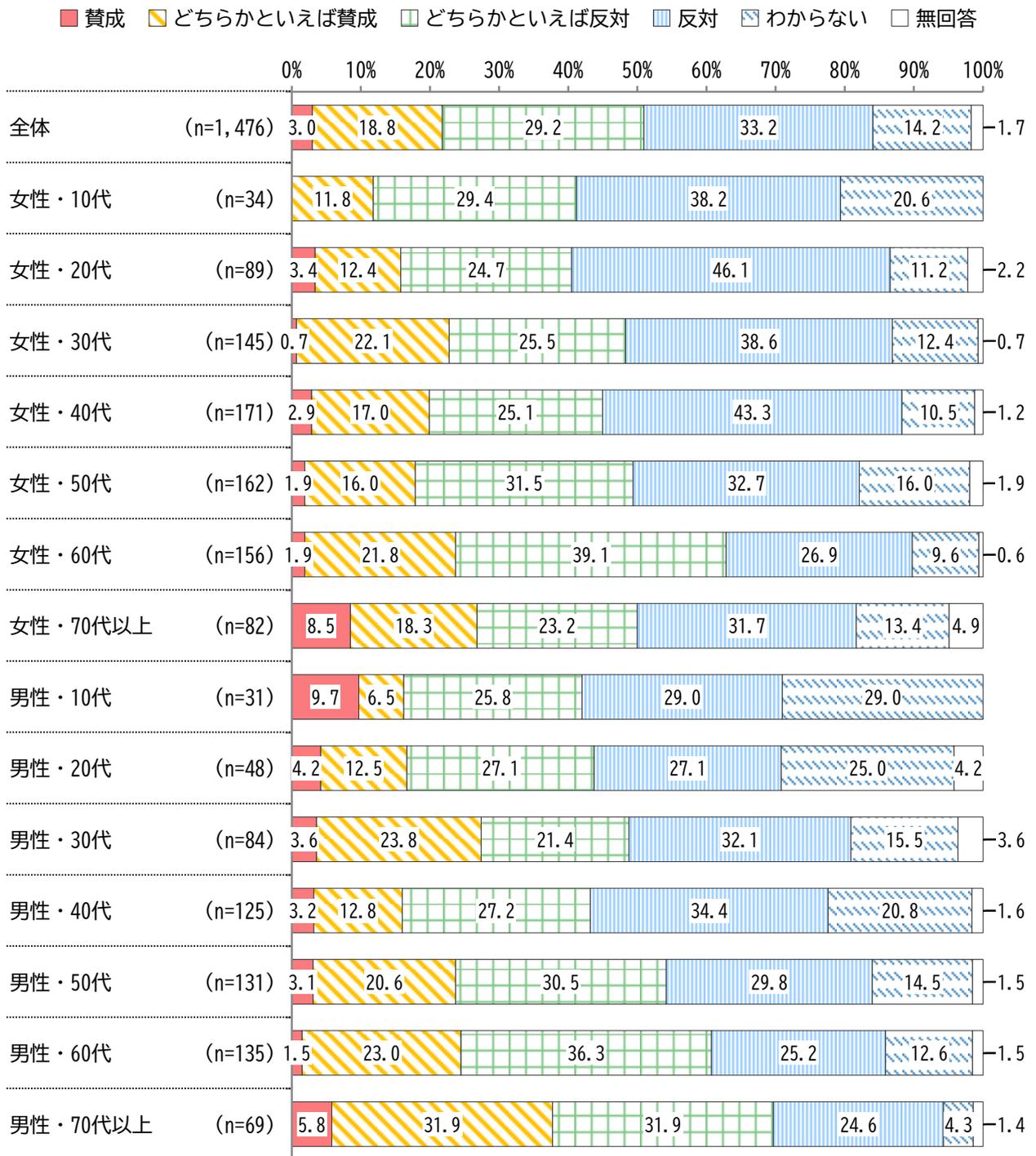
### 【年代別比較】

- 年代別でみると、全体では「反対」が 33.2%で最も高く、「どちらかといえば反対」(29.2%)が続いて否定的意見が中心である。「反対」は 40代 (39.3%) が最も高く、20代 (39.1%) と続く。一方、70代以上では「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計が 31.5%と他年代より相対的に高い。



【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると女性・20代（70.8%）が最も高く、最も低い男性・30代（53.5%）と17.3ポイントの差がある。「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると男性・70代以上（37.7%）が最も高く、最も低い女性・10代（11.8%）と25.9ポイントの差がある。全体として否定的意見が肯定的意見を上回っている。



【属性別比較】

(%)

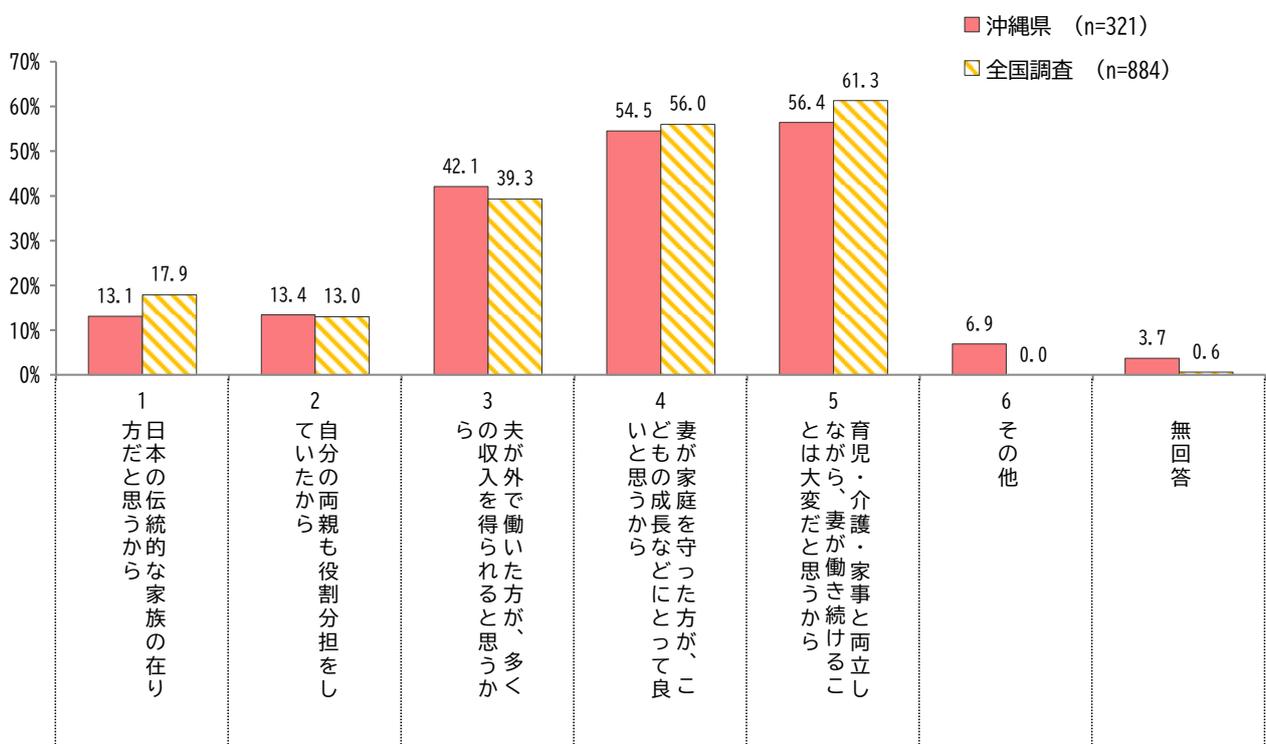
		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
全体		1,476	3.0	18.8	29.2	33.2	14.2	1.7
年齢層	10～30代	436	2.8	17.4	24.8	36.7	16.5	1.8
	40代以上	1,040	3.1	19.3	31.1	31.7	13.2	1.6
婚姻状況	既婚	911	3.0	22.9	28.8	31.6	13.3	0.4
	パートナーと暮らしている	34	2.9	14.7	35.3	38.2	5.9	2.9
	離別・死別	141	3.5	11.3	31.9	36.9	10.6	5.7
	未婚	383	2.6	11.7	29.0	35.2	18.5	2.9
雇用形態	正社員（フルタイム）	540	1.5	18.0	28.5	39.3	11.5	1.3
	正社員（短時間）	29	-	41.4	24.1	34.5	-	-
	パート・アルバイト、契約社員、嘱託、派遣職員、内職	373	2.9	15.8	29.8	31.1	18.2	2.1
	起業・自営・家族従業	179	5.0	17.9	26.8	34.1	14.5	1.7
	学生	73	4.1	6.8	24.7	43.8	20.5	-
	無職	232	5.6	26.3	30.2	21.1	14.2	2.6
	その他	46	-	21.7	45.7	21.7	8.7	2.2

#### 問4 賛成と思う理由をお答えください。(〇はいくつでも)

- 全体では、「5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が56.4%で最も高く、次いで「4.妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が54.5%となっている。

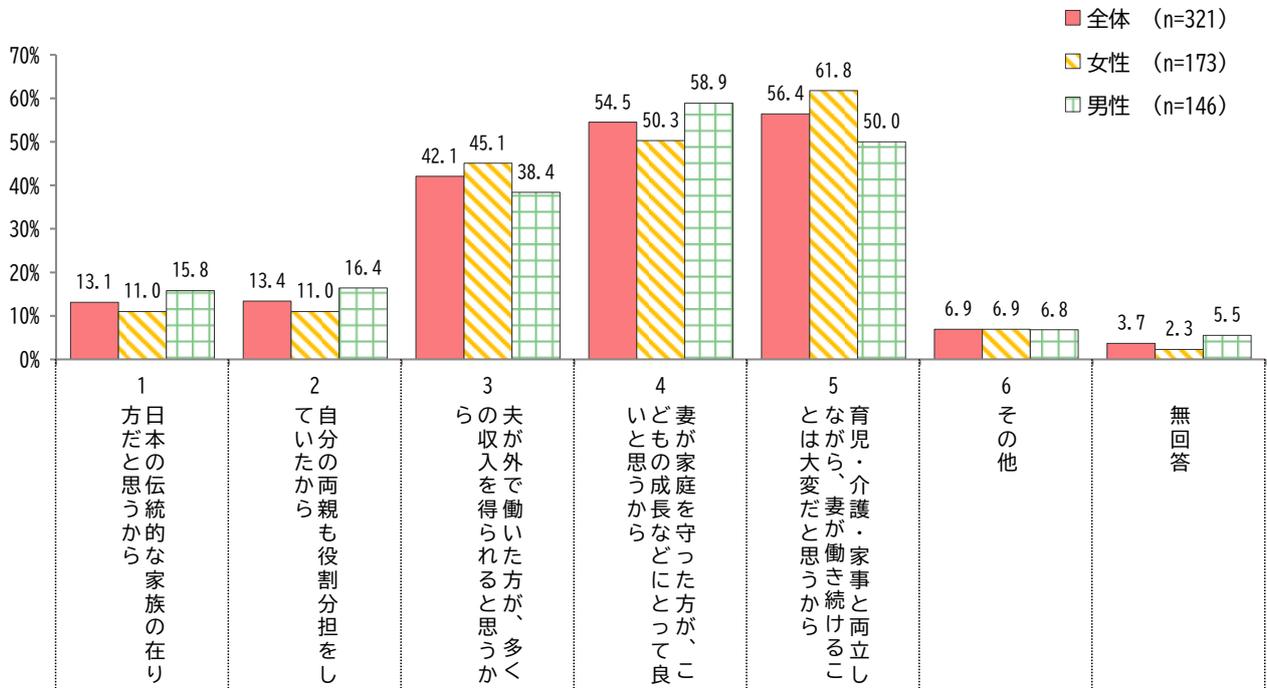
#### 【全国調査比較】

- 全国調査と比較すると、沖縄県では「5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が56.4%で最も高く、「4.妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が54.5%と続く。「3.夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は42.1%。「1.日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」は13.1%で全国より低い。



### 【性別比較】

- 性別でみると、女性では「5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 61.8%で最も高く、男性では「4.妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が 58.9%で最も高い。全体として家庭内負担の重さや育児環境を理由とする選択が多い傾向が示されている。



### 【年代別比較】

- 年代別でみると、10代は「4.妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が 60.0%となり全体より 5.5 ポイント、60代は 67.1%となり全体より 12.6 ポイント高い。70代以上は 52.1%となり全体より 2.4 ポイント低い。「3.夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は中高年層で割合が高い。

		n	1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思っから	2. 自分の両親も役割分担をしてたから	3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思っから	4. 妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思っから	5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思っから	6. その他	無回答
全体		321	13.1	13.4	42.1	54.5	56.4	6.9	3.7
年代	10代	10	-	10.0	30.0	60.0	50.0	10.0	-
	20代	22	9.1	22.7	18.2	40.9	54.5	13.6	9.1
	30代	56	5.4	10.7	37.5	48.2	58.9	16.1	1.8
	40代	55	5.5	12.7	38.2	52.7	58.2	10.9	1.8
	50代	60	10.0	6.7	38.3	53.3	46.7	3.3	6.7
	60代	70	18.6	15.7	54.3	67.1	67.1	1.4	1.4
	70代以上	48	31.3	18.8	52.1	52.1	50.0	-	6.3

### 【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、女性では多くの年代で「5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が6割前後となっている。男性では60代の「4.妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が78.8%で最も高く、多くの年代で割合が高い。全体として育児負担や家庭内役割を理由とする回答が多い傾向がみられる。

(%)

		n	1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	2. 自分の両親も役割分担をしていたから	3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	4. 妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから	5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	6. その他	無回答
全体		321	13.1	13.4	42.1	54.5	56.4	6.9	3.7
性年代	女性・10代	4	-	25.0	-	50.0	75.0	-	-
	女性・20代	14	14.3	14.3	21.4	42.9	64.3	14.3	-
	女性・30代	33	6.1	9.1	36.4	45.5	63.6	15.2	-
	女性・40代	34	5.9	5.9	41.2	55.9	61.8	8.8	2.9
	女性・50代	29	6.9	6.9	37.9	41.4	58.6	3.4	3.4
	女性・60代	37	16.2	16.2	64.9	56.8	62.2	2.7	2.7
	女性・70代以上	22	22.7	13.6	63.6	54.5	59.1	-	4.5
	男性・10代	5	-	-	60.0	60.0	40.0	20.0	-
	男性・20代	8	-	37.5	12.5	37.5	37.5	12.5	25.0
	男性・30代	23	4.3	13.0	39.1	52.2	52.2	17.4	4.3
	男性・40代	20	5.0	25.0	30.0	45.0	50.0	15.0	-
	男性・50代	31	12.9	6.5	38.7	64.5	35.5	3.2	9.7
	男性・60代	33	21.2	15.2	42.4	78.8	72.7	-	-
	男性・70代以上	26	38.5	23.1	42.3	50.0	42.3	-	7.7

【属性別比較】

(%)

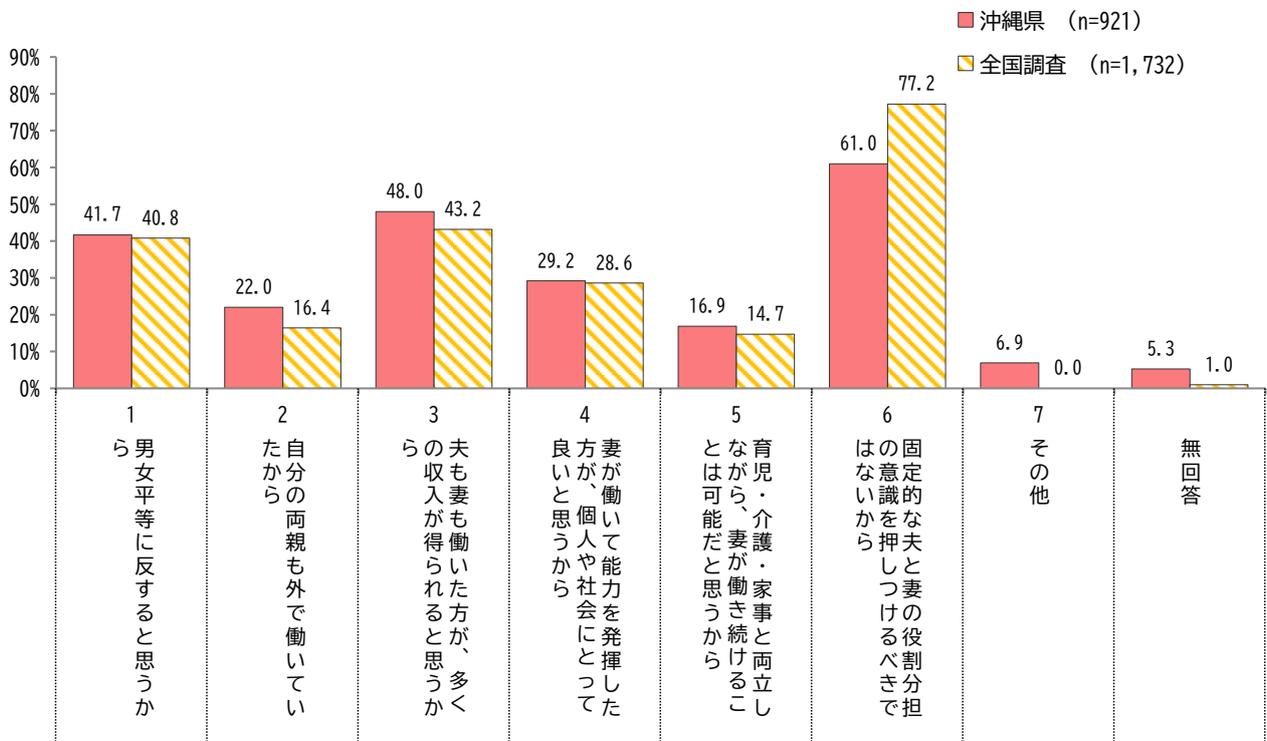
		n	1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	2. 自分の両親も役割分担をしていたから	3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	4. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	6. その他	無回答
全体		321	13.1	13.4	42.1	54.5	56.4	6.9	3.7
年齢層	10～30代	88	5.7	13.6	31.8	47.7	56.8	14.8	3.4
	40代以上	233	15.9	13.3	45.9	57.1	56.2	3.9	3.9
婚姻状況	既婚	236	12.7	11.4	48.3	55.1	55.5	5.1	3.0
	パートナーと暮らしている	6	16.7	16.7	16.7	50.0	83.3	-	-
	離別・死別	21	19.0	23.8	28.6	61.9	61.9	-	4.8
	未婚	55	12.7	18.2	23.6	50.9	52.7	18.2	7.3
雇用形態	正社員（フルタイム）	105	8.6	17.1	35.2	56.2	57.1	7.6	5.7
	正社員（短時間）	12	16.7	-	50.0	50.0	75.0	-	-
	パート・アルバイト、契約社員、嘱託、派遣職員、内職	70	14.3	11.4	50.0	50.0	51.4	10.0	-
	起業・自営・家族従業	41	14.6	9.8	39.0	56.1	63.4	4.9	2.4
	学生	8	-	12.5	25.0	50.0	37.5	12.5	12.5
	無職	74	16.2	14.9	43.2	56.8	55.4	5.4	5.4
	その他	10	20.0	-	60.0	60.0	60.0	-	-

問5 反対と思う理由をお答えください。(〇はいくつでも)

- 全体では、「6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が61.0%で最も高く、次いで「3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が48.0%となっている。

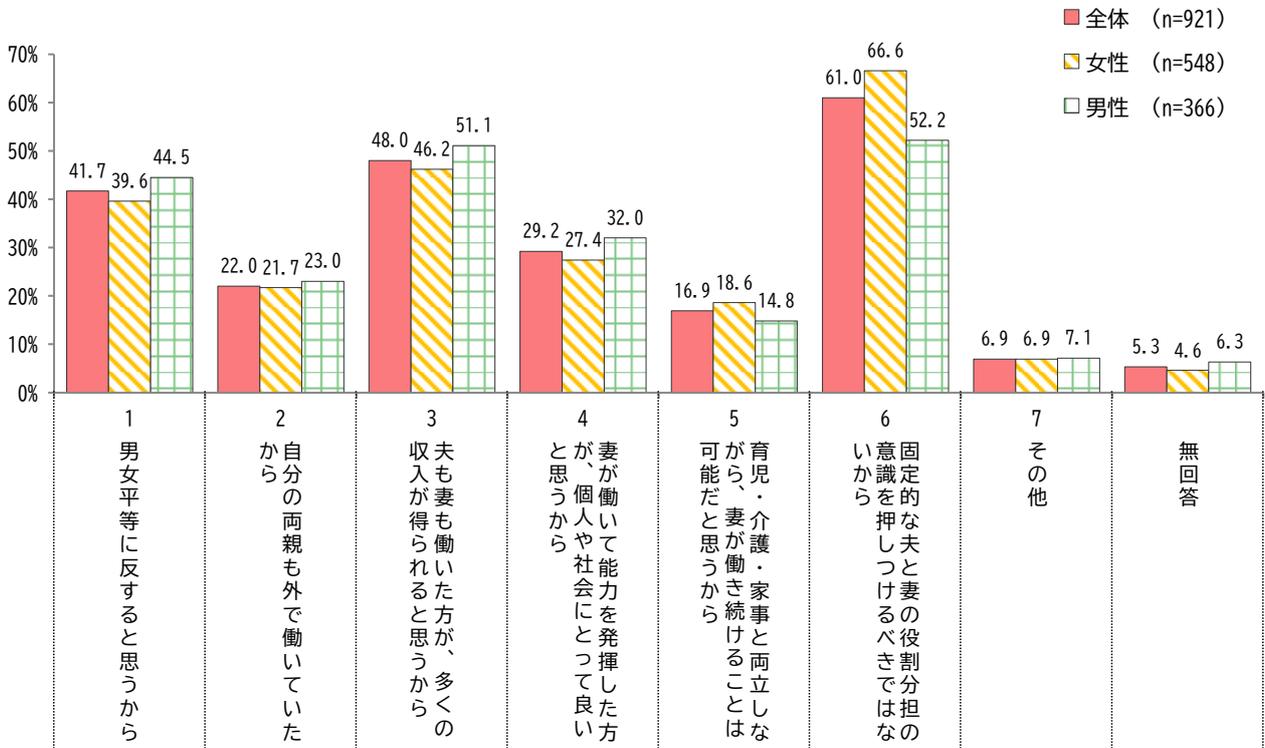
【全国調査比較】

- 沖縄県と全国調査でいずれも「6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も高くなっているが、沖縄県は61.0%、全国調査は77.2%で、全国調査の方が16.2ポイント高く、他の項目より差が大きい。「3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思う」は48.0%で、全国調査(43.2%)より高い。「1.男女平等に反すると思うから」は41.7%で全国と同程度となっている。



### 【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が66.6%で最も高く、「3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が46.2%となっている。男性は「6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が52.2%で最も高く、「3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が51.1%で続いている。



【年代別比較】

- 年代別でみると、「6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではない」は30代が69.1%で最も高く、70代以上が63.1%と次に高い。「1.男女平等に反すると思うから」は70代以上が59.5%で最も高い。「4.妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思う」は60代が42.2%で突出している。

(%)

		n	1.男女平等に反すると思うから	2.自分の両親も外で働いていたから	3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	4.妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
全体		921	41.7	22.0	48.0	29.2	16.9	61.0
年代	10代	40	40.0	37.5	42.5	25.0	12.5	62.5
	20代	89	40.4	37.1	41.6	16.9	12.4	60.7
	30代	139	34.5	24.5	48.2	23.7	10.1	69.1
	40代	194	39.7	23.2	44.3	23.2	14.4	56.2
	50代	188	41.5	15.4	48.4	30.3	22.3	59.0
	60代	187	42.2	13.9	52.9	42.2	19.3	61.0
	70代以上	84	59.5	25.0	53.6	35.7	23.8	63.1
		n	7.その他	無回答				
全体		921	6.9	5.3				
年代	10代	40	10.0	2.5				
	20代	89	10.1	4.5				
	30代	139	8.6	4.3				
	40代	194	5.2	6.7				
	50代	188	6.4	6.4				
	60代	187	4.3	6.4				
	70代以上	84	10.7	1.2				

【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、多くの層で「6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も高く、女性・10代（73.9%）、女性・30代（72.0%）、男性・30代（62.2%）など幅広い層で重視されている。「1.男女平等に反すると思うから」は女性・70代以上（57.8%）、男性・70代以上（61.5%）など高い割合となり、固定的な役割分担への否定的な意識が年代を通じて共通している。

(%)

		n	1.男女平等に反すると思うから	2.自分の両親も外で働いていたから	3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	4.妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
全体		921	41.7	22.0	48.0	29.2	16.9	61.0
性年代	女性・10代	23	47.8	34.8	60.9	30.4	17.4	73.9
	女性・20代	63	42.9	34.9	38.1	15.9	15.9	69.8
	女性・30代	93	29.0	29.0	46.2	22.6	11.8	72.0
	女性・40代	117	36.8	23.1	38.5	18.8	14.5	59.8
	女性・50代	104	34.6	16.3	42.3	26.0	21.2	67.3
	女性・60代	103	45.6	10.7	56.3	40.8	24.3	64.1
	女性・70代以上	45	57.8	15.6	55.6	46.7	28.9	68.9
	男性・10代	17	29.4	41.2	17.6	17.6	5.9	47.1
	男性・20代	26	34.6	42.3	50.0	19.2	3.8	38.5
	男性・30代	45	44.4	15.6	51.1	26.7	6.7	62.2
	男性・40代	77	44.2	23.4	53.2	29.9	14.3	50.6
	男性・50代	79	49.4	15.2	58.2	35.4	25.3	46.8
	男性・60代	83	38.6	18.1	49.4	44.6	13.3	56.6
	男性・70代以上	39	61.5	35.9	51.3	23.1	17.9	56.4
		n	7.その他	無回答				
全体		921	6.9	5.3				
性年代	女性・10代	23	8.7	-				
	女性・20代	63	6.3	3.2				
	女性・30代	93	8.6	3.2				
	女性・40代	117	5.1	4.3				
	女性・50代	104	6.7	7.7				
	女性・60代	103	4.9	6.8				
	女性・70代以上	45	13.3	-				
	男性・10代	17	11.8	5.9				
	男性・20代	26	19.2	7.7				
	男性・30代	45	8.9	6.7				
	男性・40代	77	5.2	10.4				
	男性・50代	79	6.3	3.8				
	男性・60代	83	3.6	6.0				
	男性・70代以上	39	7.7	2.6				

【属性別比較】

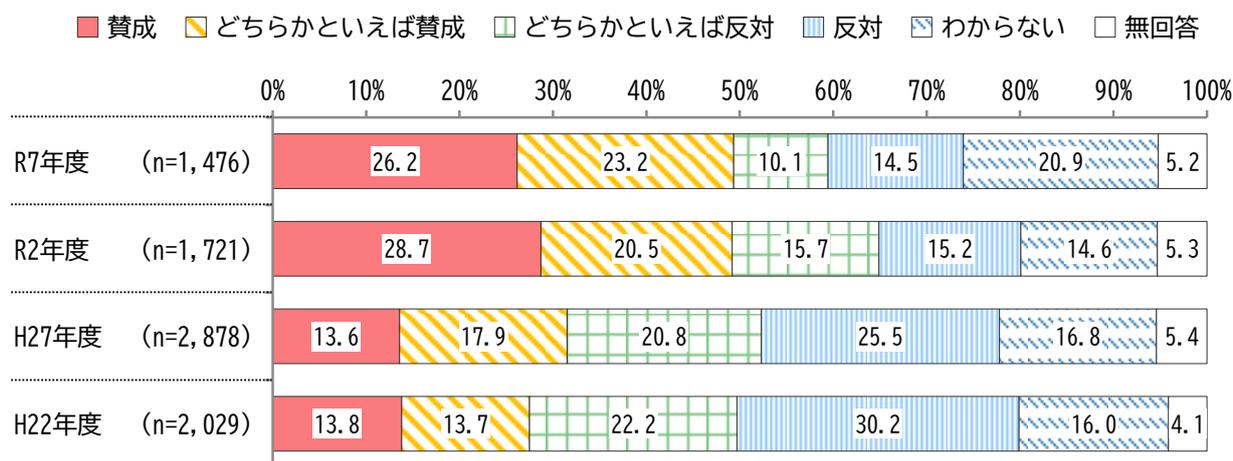
(%)

		n	1.男女平等に反すると思うから	2.自分の両親も外で働いていたから	3.夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	4.妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	6.固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
全体		921	41.7	22.0	48.0	29.2	16.9	61.0
年齢層	10～30代	268	37.3	30.6	45.1	21.6	11.2	65.3
	40代以上	653	43.5	18.5	49.2	32.3	19.3	59.3
婚姻状況	既婚	550	42.2	18.7	50.7	33.3	19.8	59.1
	パートナーと暮らしている	25	28.0	16.0	52.0	32.0	12.0	48.0
	離別・死別	97	46.4	13.4	42.3	24.7	17.5	56.7
	未婚	246	39.8	32.5	43.1	21.5	10.6	68.3
雇用形態	正社員（フルタイム）	366	41.3	23.8	49.7	26.0	15.0	58.2
	正社員（短時間）	17	23.5	5.9	29.4	23.5	11.8	58.8
	パート・アルバイト、契約社員、嘱託、派遣職員、内職	227	36.6	20.7	50.2	28.6	22.9	66.5
	起業・自営・家族従業	109	44.0	14.7	37.6	38.5	12.8	59.6
	学生	50	44.0	46.0	40.0	26.0	18.0	56.0
	無職	119	50.4	16.8	53.8	31.1	16.0	63.9
	その他	31	48.4	29.0	48.4	38.7	16.1	58.1
		n	7.その他	無回答				
全体		921	6.9	5.3				
年齢層	10～30代	268	9.3	4.1				
	40代以上	653	6.0	5.8				
婚姻状況	既婚	550	5.6	4.5				
	パートナーと暮らしている	25	4.0	16.0				
	離別・死別	97	9.3	9.3				
	未婚	246	8.9	4.5				
雇用形態	正社員（フルタイム）	366	6.3	6.6				
	正社員（短時間）	17	11.8	5.9				
	パート・アルバイト、契約社員、嘱託、派遣職員、内職	227	3.5	2.2				
	起業・自営・家族従業	109	6.4	8.3				
	学生	50	12.0	2.0				
	無職	119	8.4	7.6				
	その他	31	25.8	-				

## ② 選択的夫婦別姓を、認める方がよい

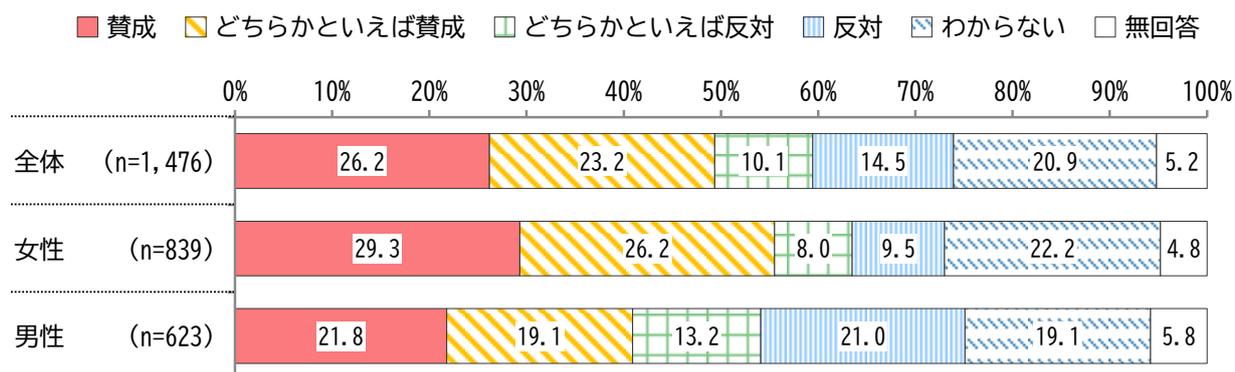
### 【経年比較】

- 経年で比較すると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は、H22年度（27.5%）と27年度（31.5%）で低い水準だったが、その後上昇しR7年度（49.4%）が最も高く、認める方向の回答が広がっている傾向がみられる。全体として、肯定的な回答が増え、否定的な回答が減少する変化がみられる。



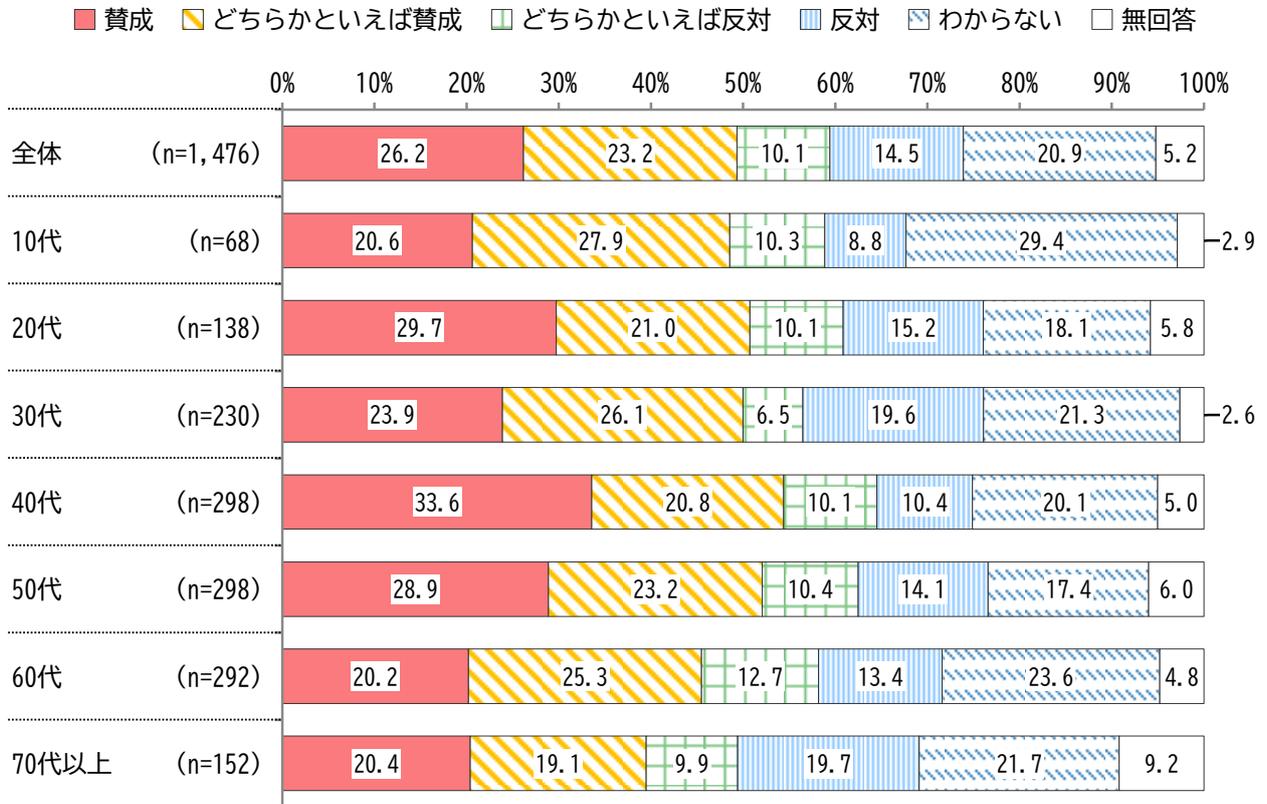
### 【性別比較】

- 性別でみると、女性は「賛成」（29.3%）、「どちらかといえば賛成」（26.2%）がいずれも高く、肯定的な回答が半数を超えている。一方で男性は「賛成」（21.8%）、「どちらかといえば賛成」（19.1%）は女性より低く、「どちらかといえば反対」（13.2%）、「反対」（21.0%）は女性より高く合計34.2%となっている。



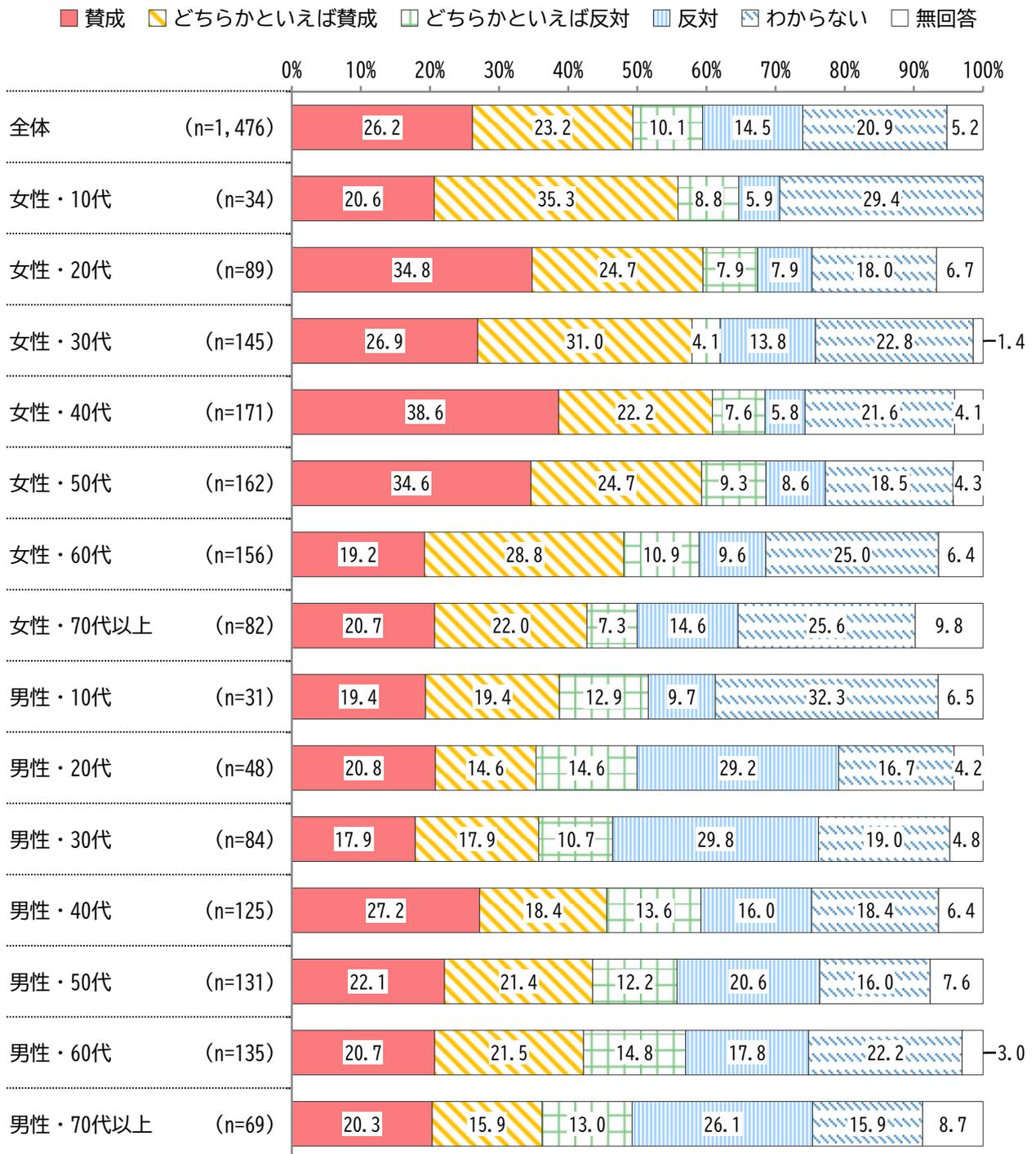
【年代別比較】

- 年代別でみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は40代が54.4%と高く、50代が52.1%と続く。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の合計は70代以上が29.6%で最も高く、10代（19.1%）より10.5ポイント高い。



【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は50代までの女性で高く、女性・40代は60.8%、女性・20代は59.5%となっている。男性は女性より割合が低い傾向であり、男性・20代は35.4%にとどまる。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の合計は男性・20代で43.8%、男性・30代で40.5%となっている。



【属性別比較】

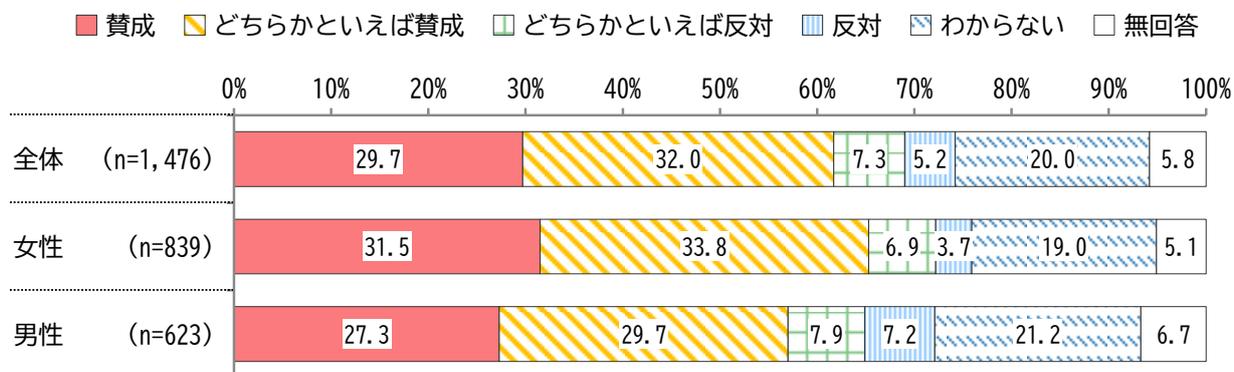
(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
全体		1,476	26.2	23.2	10.1	14.5	20.9	5.2
年齢層	10～30代	436	25.2	24.8	8.3	16.5	21.6	3.7
	40代以上	1,040	26.5	22.5	10.9	13.7	20.6	5.9
婚姻状況	既婚	911	24.8	23.1	10.5	15.5	22.1	4.1
	パートナーと暮らしている	34	41.2	20.6	8.8	14.7	8.8	5.9
	離別・死別	141	29.8	20.6	11.3	12.8	17.0	8.5
	未婚	383	26.6	24.3	8.9	13.1	20.6	6.5
雇用形態	正社員（フルタイム）	540	26.9	23.3	10.4	15.6	18.5	5.4
	正社員（短時間）	29	17.2	34.5	10.3	17.2	20.7	-
	パート・アルバイト、契約社員、嘱託、派遣職員、内職	373	26.3	22.3	11.5	9.9	24.4	5.6
	起業・自営・家族従業	179	27.9	17.9	8.4	22.3	19.6	3.9
	学生	73	24.7	28.8	12.3	13.7	20.5	-
	無職	232	25.0	25.4	7.8	12.9	21.6	7.3
	その他	46	26.1	21.7	10.9	17.4	17.4	6.5

### ③ 事実婚を認める方がよい

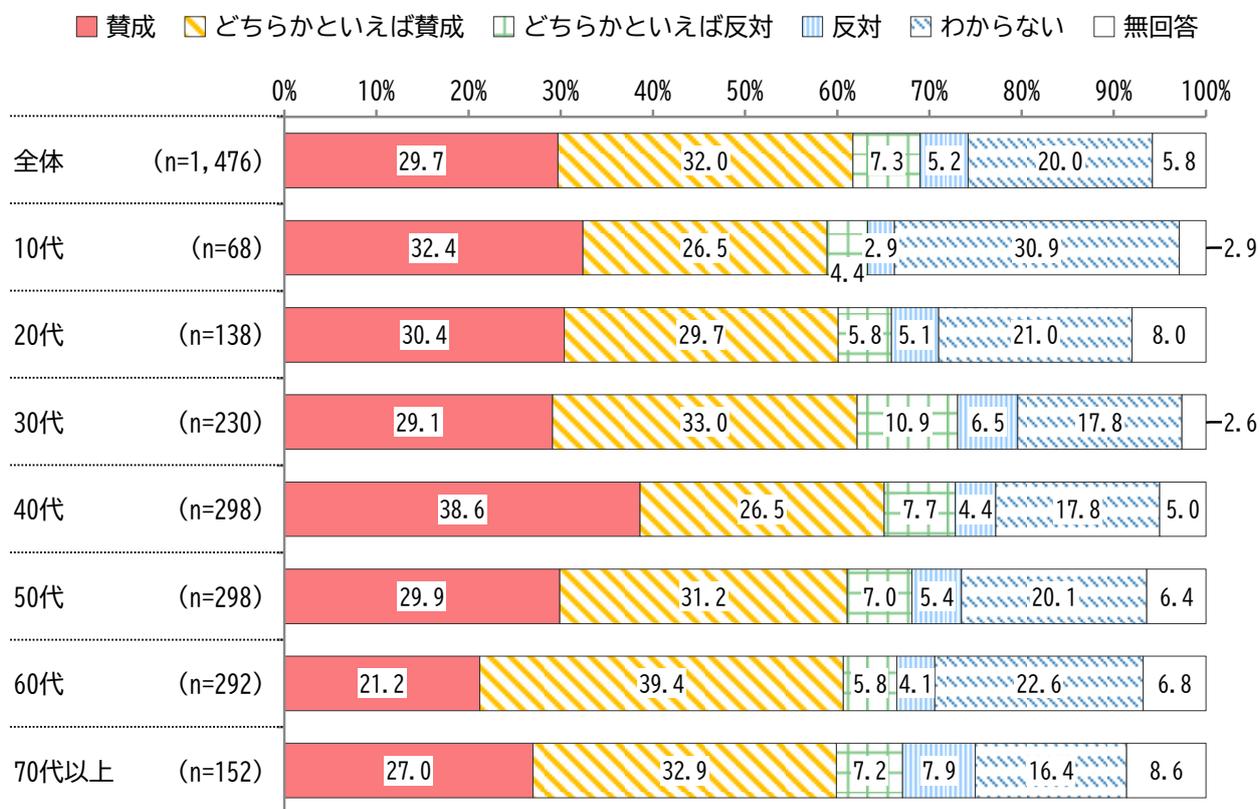
#### 【性別比較】

- 性別でみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」は女性が65.3%、男性は57.0%で女性が8.3ポイント高い。「どちらかといえば反対」「反対」の合計は女性が10.6%、男性は15.1%で男性が4.5ポイント高い。「わからない」は女性が19.0%、男性は21.2%で男性が2.2ポイント高い。



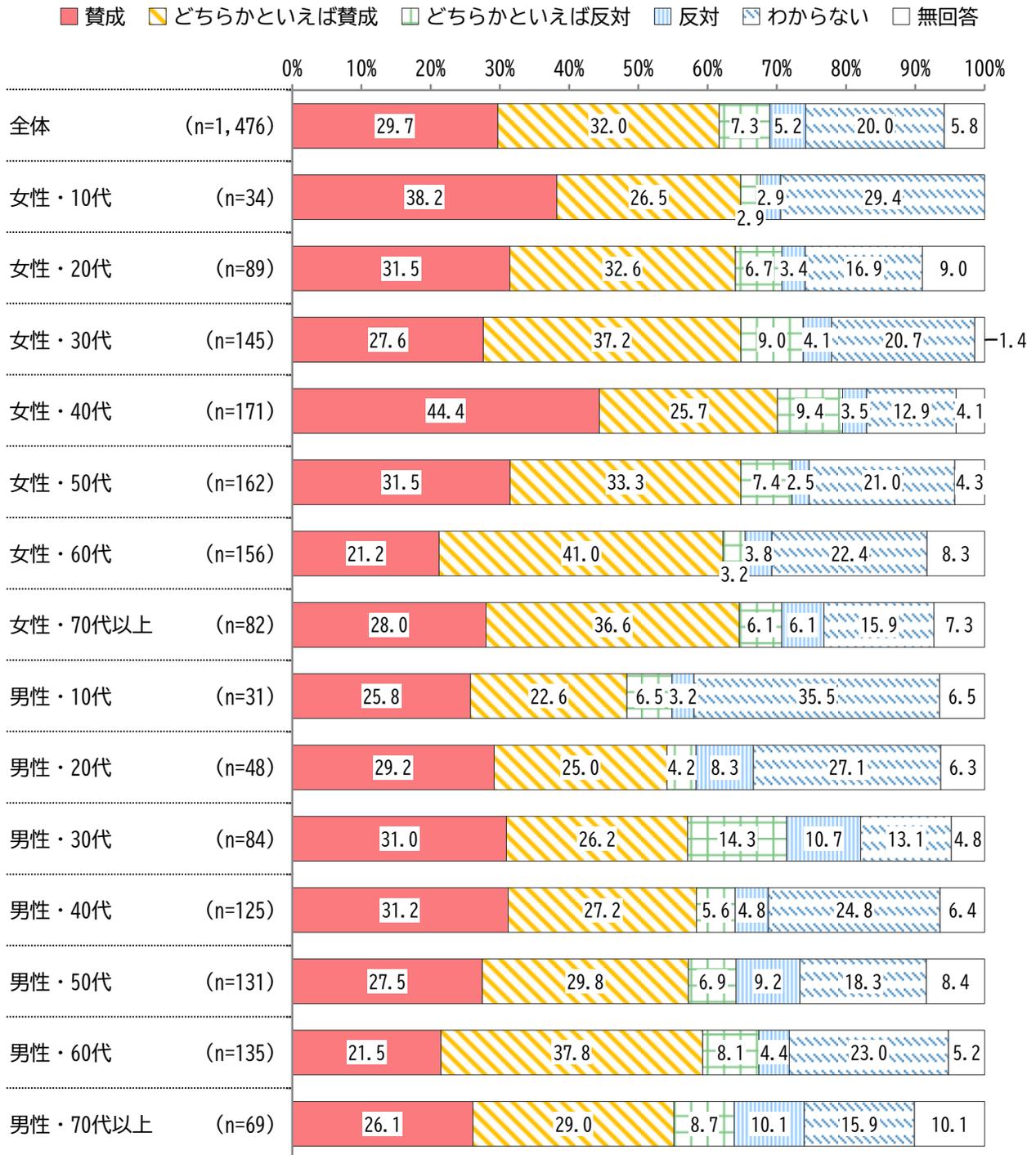
#### 【年代別比較】

- 年代別でみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は40代が65.1%で最も高く、60代は「どちらかといえば賛成」(39.4%)が他の年代に比べて突出して高い。10代は「わからない」(30.9%)が高い。



【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」は全年代で5〜7割前後を占め、肯定的な傾向がみられる。特に女性では「賛成」「どちらかといえば賛成」が高い割合で推移し、女性・40代では70.1%となっている。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の合計は男女とも1桁台から10%台となっている。「わからない」は若年層男性で相対的に高く、判断を保留する層が一定みられる構成である。



【属性別比較】

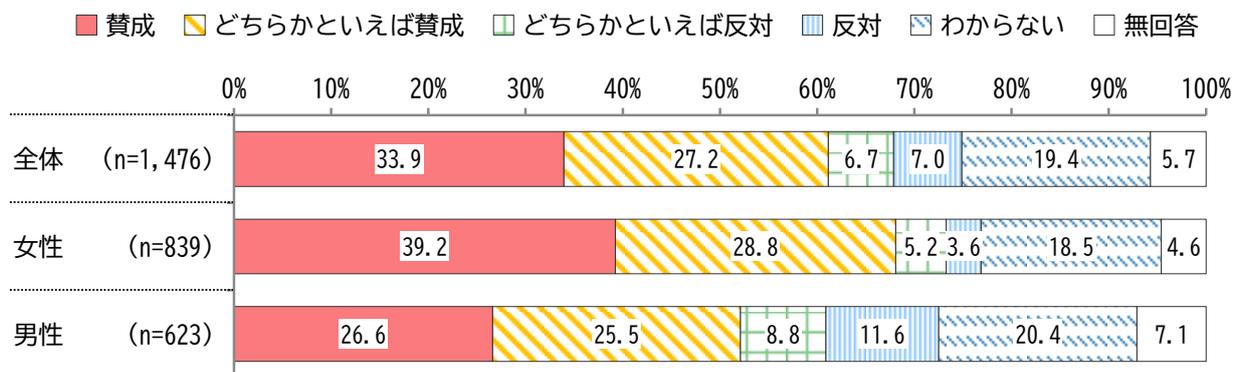
(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
全体		1,476	29.7	32.0	7.3	5.2	20.0	5.8
年齢層	10～30代	436	30.0	31.0	8.3	5.5	20.9	4.4
	40代以上	1,040	29.5	32.4	6.9	5.1	19.6	6.4
婚姻状況	既婚	911	28.1	31.7	8.0	6.0	21.4	4.7
	パートナーと暮らしている	34	35.3	38.2	2.9	8.8	8.8	5.9
	離別・死別	141	34.8	33.3	7.1	5.0	11.3	8.5
	未婚	383	31.1	31.3	6.3	3.1	20.9	7.3

#### ④ 同性婚を認める方がよい

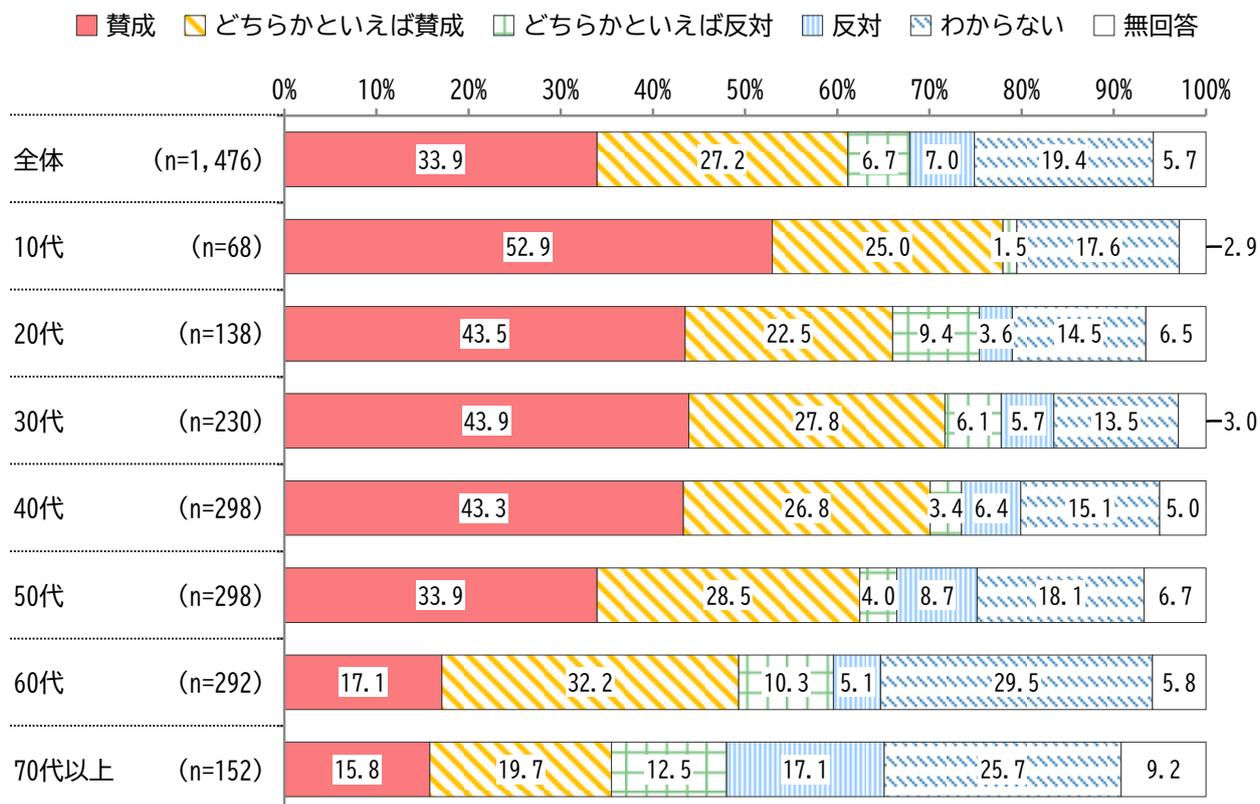
##### 【性別比較】

- 性別でみると、女性は「賛成」「どちらかといえば賛成」が68.0%に達し、男性(52.1%)より15.9ポイント高い。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の合計は女性で8.8%、男性で20.4%となり、11.6ポイントの差がある。「わからない」は男性で20.4%とやや高く、判断が定まらない層も一定みられる点が特徴である。



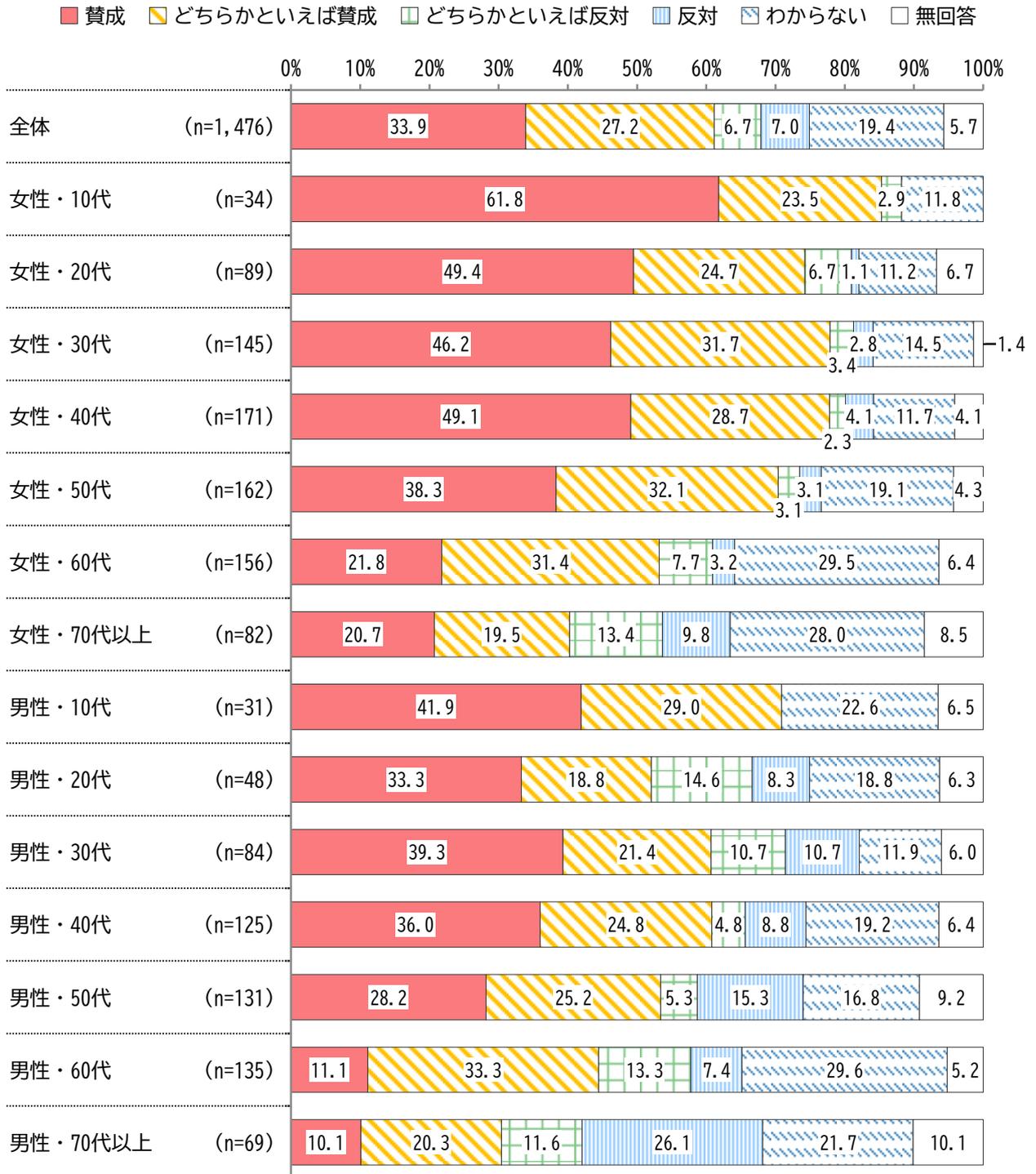
##### 【年代別比較】

- 年代別でみると、「賛成」は10代(52.9%)が突出して高く、20代が43.5%、30代が43.9%となっている。60代は「どちらかといえば賛成」(32.2%)が高い一方で「わからない」(29.5%)も高い水準となっている。70代以上は「反対」(17.1%)、「どちらかといえば反対」(12.5%)を合わせた29.6%が他年代より高い。



【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、「賛成」「どちらかといえば賛成」は多くの年代で過半を占め、同性婚への肯定的な見方が幅広くみられる。特に女性は10代から50代まで高い傾向が続き、支持が安定している。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の合計は男性・70代以上が37.7%と突出して高い。「わからない」は男女とも高年代層で比率が高く、判断を留保する層が一定みられる点の特徴である。



【属性別比較】

(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
全体		1,476	33.9	27.2	6.7	7.0	19.4	5.7
年齢層	10～30代	436	45.2	25.7	6.4	4.1	14.4	4.1
	40代以上	1,040	29.2	27.8	6.8	8.3	21.5	6.3
婚姻状況	既婚	911	31.1	28.2	6.9	7.2	22.1	4.5
	パートナーと暮らしている	34	52.9	20.6	5.9	8.8	5.9	5.9
	離別・死別	141	33.3	22.7	8.5	9.2	17.0	9.2
	未婚	383	39.2	26.9	5.5	5.7	15.7	7.0

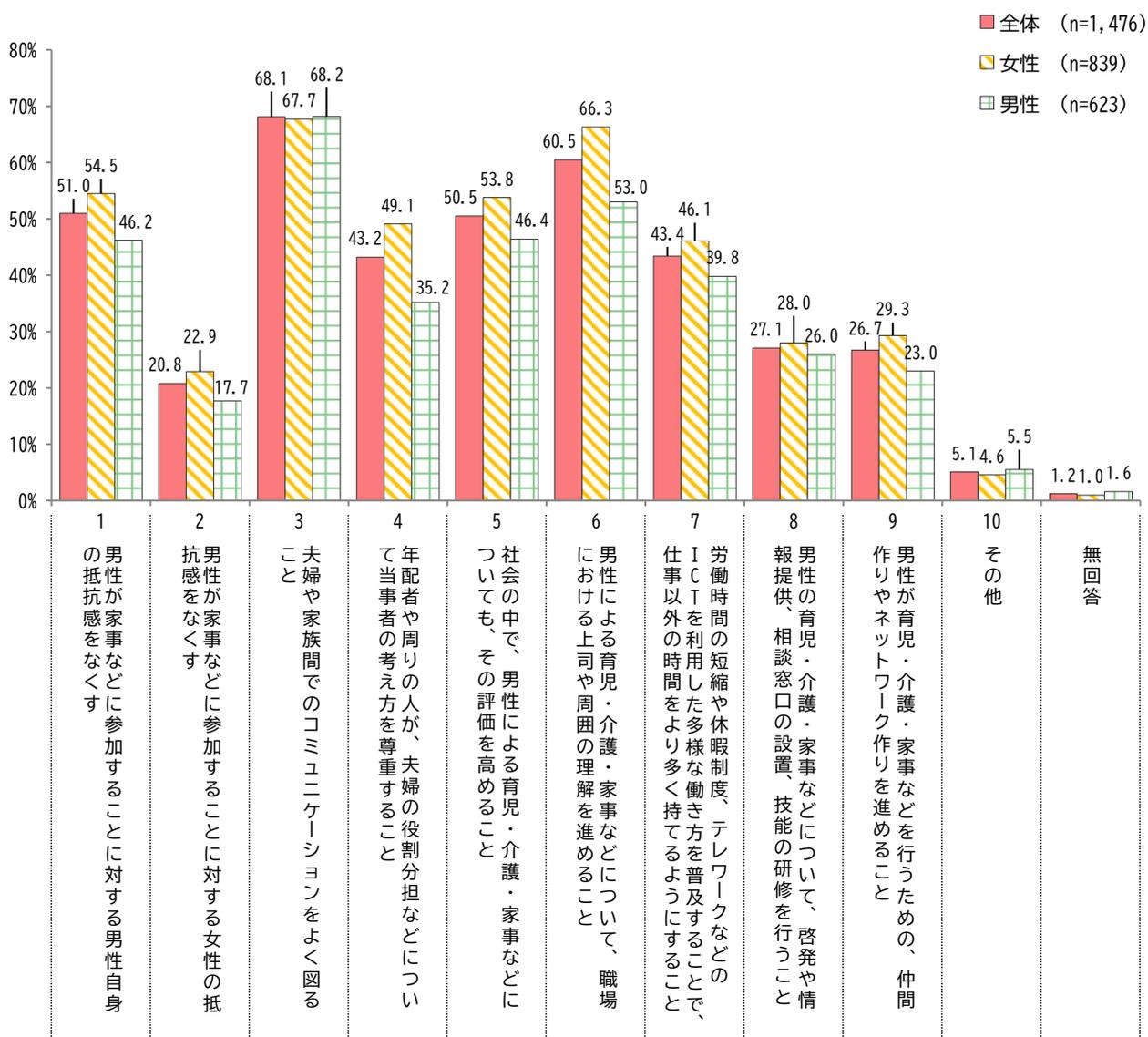
### (3) 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと ……………

問 6 あなたは、今後男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「3.夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が68.1%で最も高く、次いで「6.男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が60.5%となっている。

#### 【性別比較】

- 性別でみると、「3.夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」は男女とも6割超で最も高く、男性の方が女性より高いが、差は0.5ポイントと少ない。次いで「6.男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が男女共に高いが、女性(66.3%)が男性(53.0%)より13.3ポイント多い。



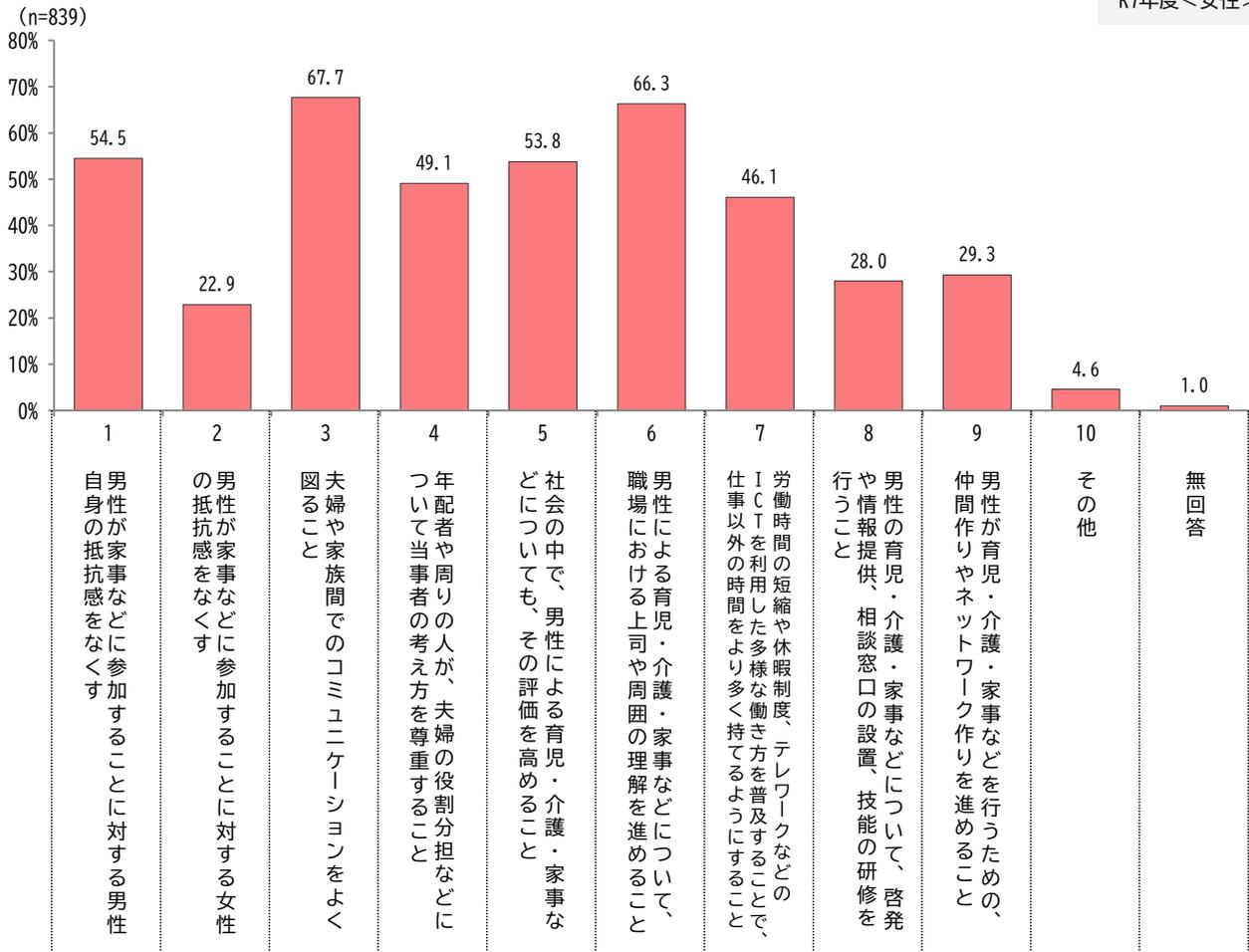
【年代別比較】

- 年代別でみると、「3.夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が全年代で割合が高く、70代以上が73.7%と最も高く、60代(70.5%)が続く。「1.男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」は70代以上(57.2%)で最も高く、若年層との差が大きい。

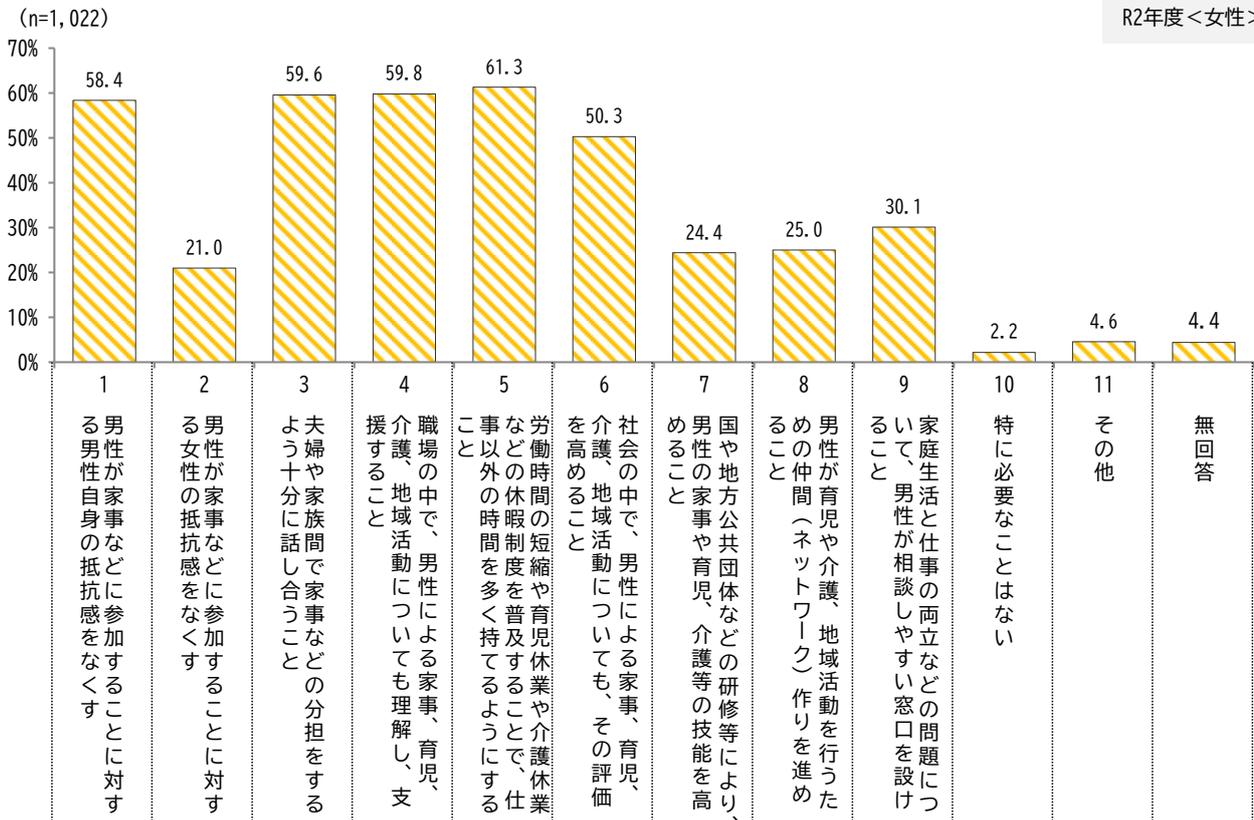
		n	1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	4. 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること	5. 社会の中で、男性による育児・介護・家事などについても、その評価を高めること	6. 男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	7. 労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つこと
全体		1,476	51.0	20.8	68.1	43.2	50.5	60.5	43.4
年代	10代	68	52.9	20.6	66.2	29.4	39.7	52.9	36.8
	20代	138	46.4	18.8	66.7	37.7	41.3	65.2	47.8
	30代	230	46.5	18.7	70.0	43.5	52.2	64.8	52.6
	40代	298	48.3	20.8	65.8	39.9	48.7	60.7	43.6
	50代	298	53.7	21.1	64.8	46.3	49.0	61.7	35.6
	60代	292	53.1	22.6	70.5	47.6	57.9	58.9	43.8
	70代以上	152	57.2	21.7	73.7	45.4	53.3	53.3	42.8
		n	8. 男性の育児・介護・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	9. 男性が育児・介護・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りを進めること	10. その他	無回答			
全体		1,476	27.1	26.7	5.1	1.2			
年代	10代	68	26.5	33.8	4.4	1.5			
	20代	138	32.6	29.7	3.6	-			
	30代	230	26.1	27.0	7.8	2.2			
	40代	298	22.5	25.5	6.7	1.0			
	50代	298	23.5	22.1	5.4	0.3			
	60代	292	31.2	30.8	1.7	1.7			
	70代以上	152	32.2	23.7	5.3	2.0			

【女性・経年比較】

R7年度<女性>

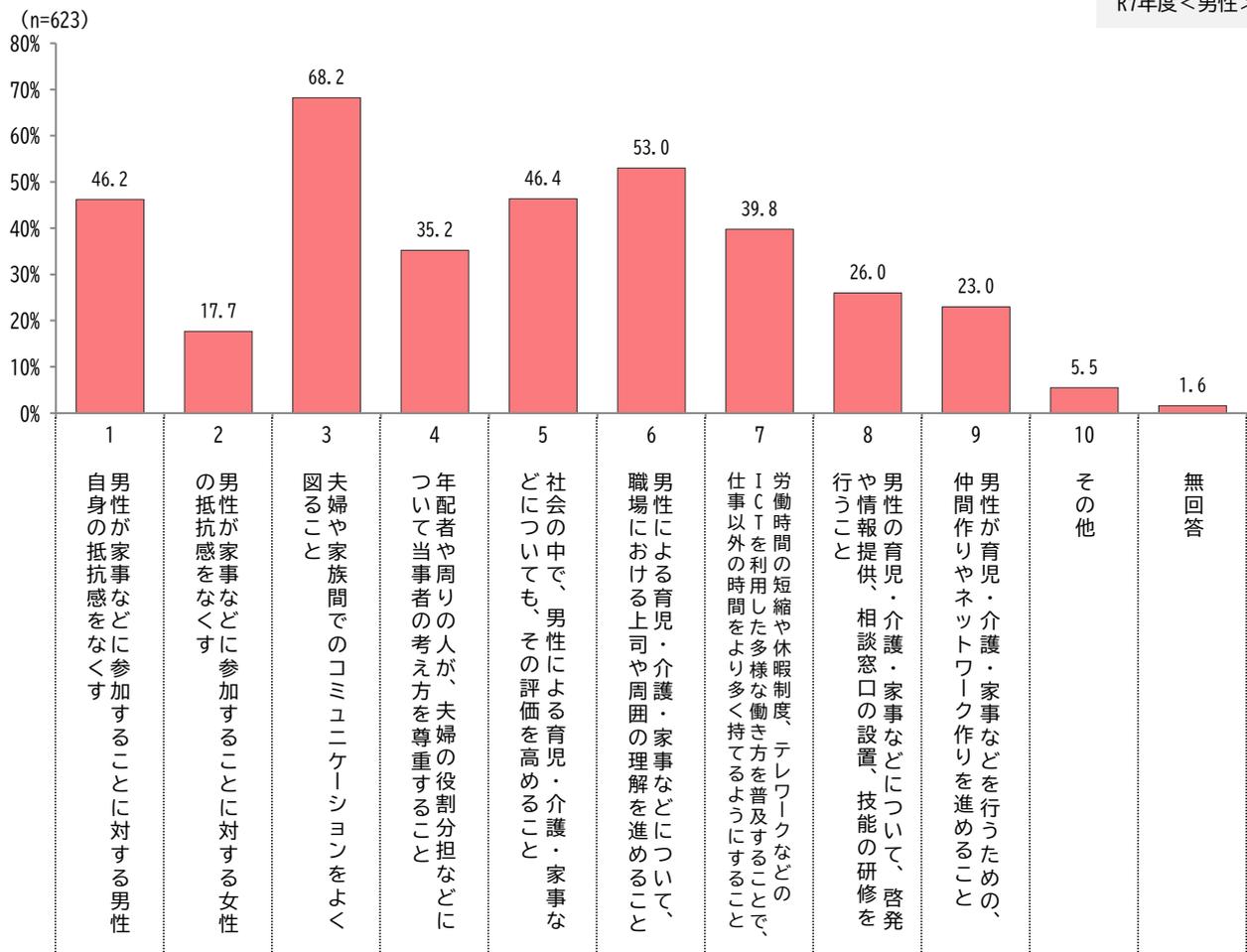


R2年度<女性>

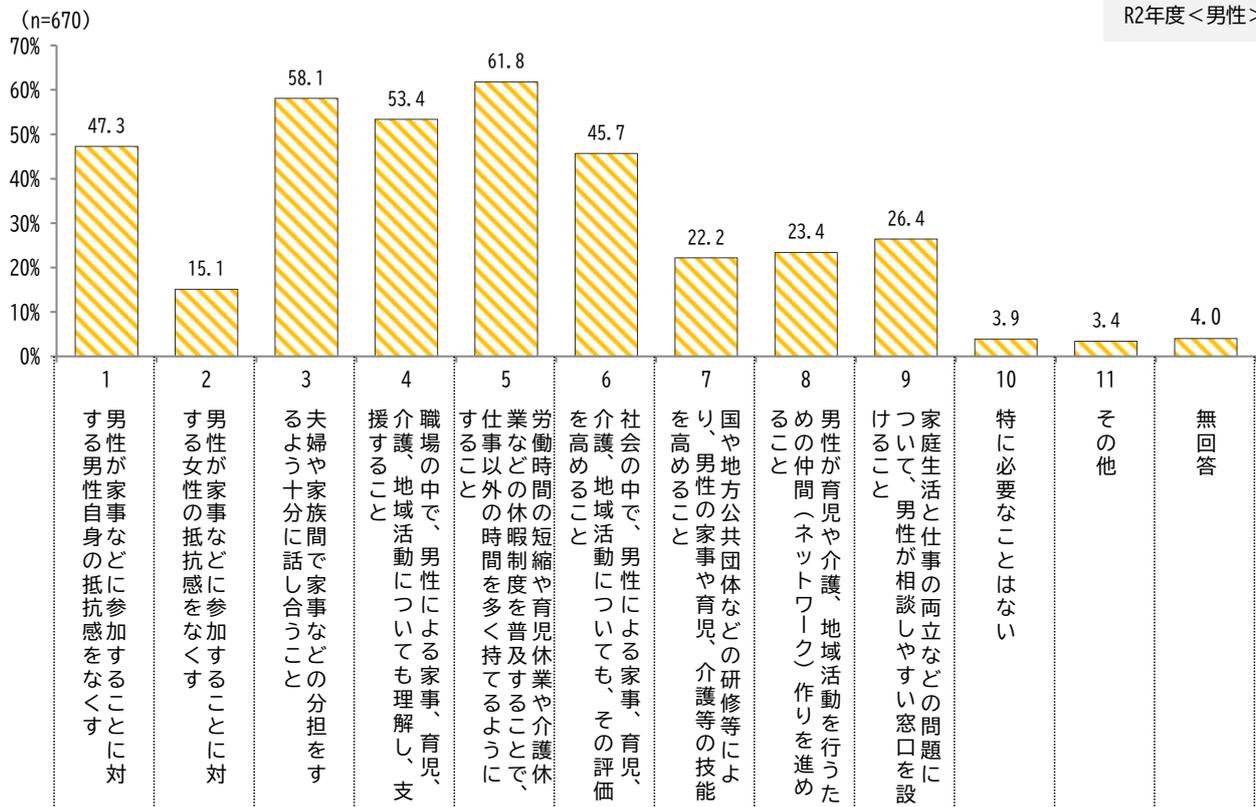


【男性・経年比較】

R7年度<男性>



R2年度<男性>



【属性別比較】

		n	1. 男性が家事などに参加することに 対する男性自身の 抵抗感をなくす	2. 男性が家事などに参加することに 対する女性の抵抗 感をなくす	3. 夫婦や家族間での コミュニケーションをよく 図ること	4. 年配者や周りの 人が、夫婦の役割 分担などについて 当事者の考え方を 尊重すること	5. 社会の中で、男 性による育児・介 護・家事などにつ いても、その評価 を高めること	6. 男性による育 児・介護・家事な どにおける上司や 周囲の理解を進め ること	7. 労働時間の短縮 や休暇制度、テレ ワークなどのICTを 利用した多様な働 き方を普及するこ とで、仕事以外の 時間をより多く持 てるようにするこ と	(%)
全体		1,476	51.0	20.8	68.1	43.2	50.5	60.5	43.4	
性年代	女性・10代	34	41.2	8.8	73.5	41.2	44.1	52.9	41.2	
	女性・20代	89	50.6	20.2	73.0	46.1	47.2	75.3	49.4	
	女性・30代	145	50.3	18.6	68.3	44.1	50.3	70.3	54.5	
	女性・40代	171	52.6	22.2	63.7	46.2	49.7	62.6	43.9	
	女性・50代	162	57.4	24.1	64.2	54.3	51.9	66.0	36.4	
	女性・60代	156	57.7	28.2	69.9	55.1	65.4	64.1	49.4	
	女性・70代以上	82	63.4	28.0	69.5	48.8	61.0	67.1	47.6	
	男性・10代	31	61.3	29.0	54.8	16.1	35.5	51.6	32.3	
	男性・20代	48	39.6	16.7	54.2	22.9	31.3	47.9	45.8	
	男性・30代	84	39.3	19.0	72.6	41.7	54.8	54.8	48.8	
	男性・40代	125	43.2	18.4	68.8	32.0	47.2	58.4	43.2	
	男性・50代	131	48.1	16.8	64.1	35.1	46.6	56.5	33.6	
	男性・60代	135	48.1	16.3	71.9	39.3	49.6	53.3	37.8	
	男性・70代以上	69	50.7	14.5	78.3	42.0	43.5	37.7	37.7	
性・雇用別	女性・正社員（フルタイム）	229	49.8	17.5	63.3	46.7	53.7	68.6	46.7	
	女性・正社員（短時間）	25	52.0	16.0	64.0	56.0	52.0	60.0	36.0	
	女性・パート・アルバイト、契約社員、 嘱託、派遣職員、内職	284	57.0	24.3	65.5	48.2	48.2	65.8	45.1	
	女性・起業・自営・家族従業	83	51.8	28.9	65.1	49.4	57.8	61.4	44.6	
	女性・学生	36	58.3	13.9	83.3	44.4	52.8	69.4	47.2	
	女性・無職	147	57.1	25.2	74.1	52.4	59.9	64.6	53.1	
	女性・その他	32	62.5	40.6	81.3	56.3	71.9	78.1	31.3	
	男性・正社員（フルタイム）	305	42.6	18.0	67.2	34.4	51.5	57.0	43.0	
	男性・正社員（短時間）	4	25.0	-	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0	
	男性・パート・アルバイト、契約社員、 嘱託、派遣職員、内職	87	43.7	18.4	73.6	33.3	48.3	54.0	36.8	
	男性・起業・自営・家族従業	94	52.1	13.8	69.1	28.7	35.1	41.5	33.0	
	男性・学生	34	58.8	29.4	58.8	23.5	32.4	47.1	41.2	
	男性・無職	84	50.0	16.7	70.2	47.6	47.6	54.8	39.3	
	男性・その他	14	57.1	14.3	64.3	57.1	35.7	42.9	42.9	
		n	8. 男性の育児・介 護・家事などにつ いて、啓発や情報 提供、相談窓口の 設置、技能の研修 を行うこと	9. 男性が育児・介 護・家事などを行 うための、仲間作 りやネットワーク 作りを進めること	10. その他	無回答				
全体		1,476	27.1	26.7	5.1	1.2				
性年代	女性・10代	34	32.4	32.4	2.9	2.9				
	女性・20代	89	33.7	29.2	1.1	-				
	女性・30代	145	27.6	28.3	8.3	1.4				
	女性・40代	171	22.2	24.0	4.1	-				
	女性・50代	162	24.1	27.8	6.2	0.6				
	女性・60代	156	30.8	36.5	1.9	1.3				
	女性・70代以上	82	35.4	30.5	6.1	2.4				
	男性・10代	31	19.4	32.3	6.5	-				
	男性・20代	48	31.3	31.3	8.3	-				
	男性・30代	84	22.6	23.8	7.1	3.6				
	男性・40代	125	23.2	27.2	9.6	2.4				
	男性・50代	131	22.9	15.3	4.6	-				
	男性・60代	135	31.9	24.4	0.7	2.2				
	男性・70代以上	69	29.0	15.9	4.3	1.4				
性・雇用別	女性・正社員（フルタイム）	229	27.5	28.4	4.4	0.4				
	女性・正社員（短時間）	25	32.0	28.0	8.0	-				
	女性・パート・アルバイト、契約社員、 嘱託、派遣職員、内職	284	27.1	30.3	5.3	1.8				
	女性・起業・自営・家族従業	83	20.5	20.5	3.6	1.2				
	女性・学生	36	44.4	41.7	2.8	-				
	女性・無職	147	28.6	29.3	3.4	0.7				
	女性・その他	32	31.3	37.5	9.4	-				
	男性・正社員（フルタイム）	305	22.3	23.0	6.2	0.7				
	男性・正社員（短時間）	4	-	-	-	-				
	男性・パート・アルバイト、契約社員、 嘱託、派遣職員、内職	87	32.2	24.1	3.4	2.3				
	男性・起業・自営・家族従業	94	31.9	21.3	5.3	2.1				
	男性・学生	34	26.5	35.3	5.9	-				
	男性・無職	84	28.6	23.8	3.6	2.4				
	男性・その他	14	21.4	-	14.3	7.1				

#### (4) 分析・考察

沖縄県において家庭生活における男女平等意識（問1）は、どの分野よりも高い。5年前の調査と比較しても大幅に上昇しており、「平等」との回答が半数に迫っている（45.1%）。これは社会全体の実態よりも、家庭内の生活が対等になりつつあることを示している。沖縄経済の現状を鑑みると、共働きでなければ家計が成り立たないこと、夫婦同士が協力して家庭生活を維持することが必要不可欠となった結果といえるだろう。

「家計の管理」や「家庭の問題の最終的な決定」など家庭内における意思決定の過程については、「夫と妻が同じ程度負担」との回答が増加している。「家計を支える（生活費をかせぐ）」のも「夫婦同程度」が増えていることを考えると、経済的には男性が必ずしも優位ではなく、生活実態の成り行きとして平等な形へ向かっているとも考えられる。家計を「主に夫が家計を支え、妻が一部を負担する」割合が継続して多い理由は、際立って高い沖縄県の女性の非正規雇用率に帰する可能性が高い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」とする固定的な性別役割分担意識に対しては、反対する割合が全国よりも高い。しかしその理由は「共働きが当たり前になっているから」という生活実態ありきの理由が多い。逆に「男女平等の理念に反するから」という理由が比較的低いことから、沖縄県の家庭生活における平等意識は、ジェンダー平等の理念が県民意識に醸成した結果というよりも、現実的な生活実態に基づくものと考えられる。

家庭生活において、他の分野よりも平等感が高いとはいえ、家庭内における家事・育児及び介護といったケア労働は、依然女性が行っている実態がある。特に「病人の看護や高齢者の介護の担い手」として3割を超える女性が不平等だと感じており、男性の不平等感よりも極めて高い。実生活の必要性に迫られて分担している一方、固定的性別役割分担意識は男性側に依然強く残っており、結果、過度な負担を女性に強いている。男が「家計を支える」というジェンダー規範が崩れつつある中、男性は率先して「家庭を守る」ためのケア労働を負担する責任がある。家計を支える女性が増える一方で、男性が家事育児、介護を担当しないのであれば、ジェンダー不平等は広がるばかりである。調査結果の家庭生活における平等感の向上は、一見ジェンダー平等に向かっているように見えるが、男性の意識変革と行動なしには、女性への負担が増加することで、逆に不平等へ向かう危険性を孕む。

このような男性の意識と行動を変えるために必要な要素として、制度や職場環境以上に「夫婦や家族間でのコミュニケーション」や「仲間作りやネットワーク作りを進めること」を多く上げている。家族を共同生活のチームと考えた時、家父長制的なトップダウンのコミュニケーションではなく、心理的安全性を保証するようなコミュニケーションスキルが必要となる。「男らしさ」を誇示するようなコミュニケーションから、家庭内で対等なパートナーシップを構築するためのコミュニケーションを身につけること無しには、夫婦や家族間コミュニケーションは改善しない。男性のジェンダー規範として、「人に頼らない」とことや自身による「課題解決能力」を重視する傾向がある。育児における「パパ友づくり」や意識改革のためのサポートグループ、コミュニケーション講座などの施策も有効であろう。

また親世代がこどもの育児やライフスタイルに対する理解と尊重も重要となる。特に女性は親世代からのジェンダー規範の圧力に晒されやすく、調査結果でも約半数の女性が年配者の理解を求めている。職場においては、管理職がマネジメントにおいて若者の価値観やワーク・ライフ・ balan

スに合わせた対応を求められている。家庭においても職場においても世代間ギャップを埋めるための努力が必要とされている。

(沖縄キリスト教学院大学 新垣 誠)